PENTAX®

各部の名称

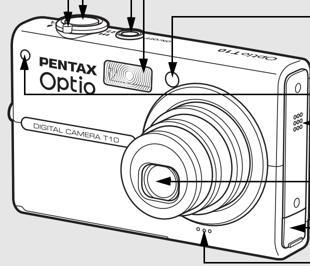
デジタルカメラ

Optio T10

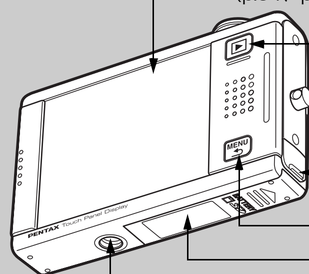
使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

前面

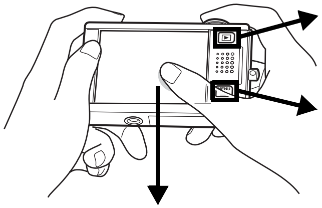


背面



設定の入り口は、3つだけ

▶ボタン、**MENU**ボタン、液晶モニターのどれかに触れるだけで、いろいろな操作や設定ができます。



▶ボタンを押す

撮影した画像や音声を再生する「再生モード」に切り替わります（p.25）。

MENUボタンを押す

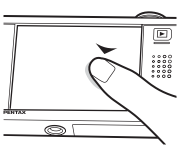
記録サイズや露出補正など、より詳細な撮影条件が設定できる［メニュー］が表示されます（p.34、p.118）。

液晶モニターにタッチ

ストロボやセルフタイマーなど、よく使う撮影機能を設定する［撮影ツールバー］（再生モード時は、［再生ツールバー］）が表示されます（p.34、p.74）。

タッチディスプレイの使い方

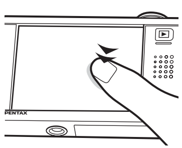
指でカメラの液晶モニターを直接タッチして操作できます。
写真の加工など細かな作業には、付属のスタイラスペンが便利です。



タッチ

タッチディスプレイを押して離す動作です。

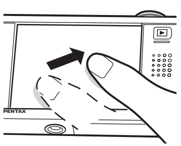
押したときにアイコンが選択され、離したときに設定が決定されます（選択したアイコンによっては、設定が決定される前に機能の説明をするガイド画面が表示されます）。
2秒以上押し続けると、選択が解除されます。
ツールバーを表示したり、アイコンを選択するときなどに使います。
矢印アイコン（▲▼◀▶）は、押し続けると、設定値の変更やページ送り操作となります。



ダブルタッチ

タッチディスプレイをすばやく2回押して離す動作です。

ガイド画面を表示させずに、直接機能の設定をしたいときに使います。



ドラッグ

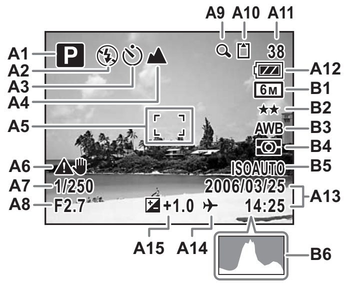
タッチディスプレイを押したまま、動かす動作です。

表示している画像の範囲を変更したり、バーを操作することで値を変更することなどができます。
選択するアイコンを間違えてしまったときは、そのまま他のアイコンまでドラッグして指を離すと、そのアイコンを選択できます。

画面の表示

写真の撮影時および再生時の表示です。

撮影時



A1　撮影モード 42
A2　ストロボモード 56
A3　ドライブモード 35
A4　フォーカスモード 63
A5　フォーカスフレーム 65
A6　手ぶれ警告 62
A7　シャッター速度 48
A8　絞り値 48
A9　デジタルズーム 46
A10 メモリーの種類 20
A11 撮影可能枚数 .... 50、52
A12 バッテリー残量 16
A13 現在の日時 121
A14 ワールドタイム設定中 125
A15 露出補正値 53
B1　記録サイズ 49
B2　画質 49
B3　ホワイトバランス 58
B4　測光方式 55
B5　感度 67
B6　ヒストグラム 54

※ B1～B6は、［標準+ヒストグラム］表示のときのみ表示されます（p.40）。

再生時

C1　ボイスメモ 105
C2　メモリーの種類 20
C3　フォルダ番号 129
C4　ファイル番号
C5　バッテリー残量 16
C6　プロテクト 91
C7　ボイスメモ再生 81
C8　撮影日時
C9　ページ送り 25
D1　記録サイズ 49
D2　画質 49
D3　ホワイトバランス 58
D4　測光方式 55
D5　感度 67
D6　シャッター速度 48
D7　絞り値 48
D8　ヒストグラム 54

※ D1～D8は、［標準+ヒストグラム］表示のときのみ表示されます（p.76）。

本書の構成

実際にOptio T10を操作しながら、「撮影前の準備」と「このカメラの楽しみ方」をお読みいただくと、一通りの操作を体験していただけます。必要に応じてその他の章を参照していただくことで、Optio T10をより深くお楽しみいただけます。

※ 撮影した画像のパソコンへの保存方法とACDSee for PENTAXのインストール方法に関しては別紙の「PC接続ガイド」を、パソコンでの画像の加工や印刷方法に関してはACDSee for PENTAXのヘルプをご覧ください。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

(注意アイコン)	操作上の注意事項を記載しています。
(メモアイコン)	知っておくと便利な情報を記載しています。
☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラOptio T10をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は、必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、Optioおよびオプティオ、smc PENTAXはペンタックス株式会社の登録商標です。
SDロゴは商標です。
QuickTime™ およびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTimeは、米国およびその他の国々で登録された商標です。
Red Eye software © 2003-2005 FotoNation In Camera Red Eyeは、米国特許（No. 6,407,777）および申請中特許を使用しています。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

目次

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラを分解・改造などしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- 付属のスタイラスペンは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。スタイラスペンの先端で目をつついたりすると、失明やけがなどの原因となります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って首に巻き付けたりすると、窒息やけがなどの原因になります。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止してバッテリーを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

- バッテリーをショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 8 以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こした時は、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- 本機の液晶モニターに傷を付けないようにご注意ください。画面をタッチするときは、指または付属のスタイラスペンを使用してください。通常のペンや鉛筆、その他の突起物は傷、故障の原因となりますので絶対に使用しないでください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

⚠ 警告

- 指定された電源以外の電圧で使用しないでください。指定以外の電源・電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。AC指定電圧は、100-240Vです。

- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている･変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理にまげたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、さわったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 8以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や、充電器の故障の原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 液晶面に指紋や汚れが目立つ場合には、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
- 破損や故障、また防水性能が損なわれる原因となりますので、強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動からは、クッションに包むなどして保護してください。万が一、強い振動・ショック・圧力などが加わってしまったら、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.19）をご覧ください。
- SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってださい。
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニターの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり液晶モニターが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ネジの締め過ぎに十分ご注意ください。
- 本製品に付属している AC コード D-CO2J は、バッテリー充電器 D-BC8専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

リサイクルについて

Li-ion

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープをはって、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

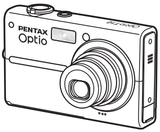
LED安全基準について

この装置は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

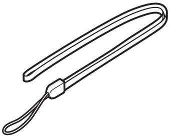
1 撮影前の準備

箱の中身を確認します

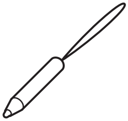
万一、不良品や不足のものがあったときは、お買い上げ販売店までご連絡ください。



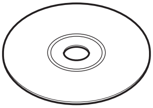
本体
Optio T10



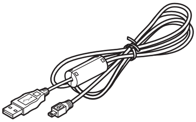
ストラップ
O-ST20（※）



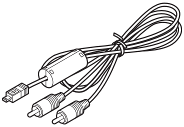
スタイラスペン
O-SP45



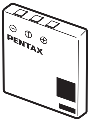
ソフトウェア
（CD-ROM）S-SW45



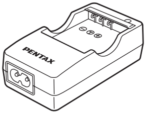
USBケーブル
I-USB17（※）



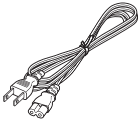
AVケーブル
I-AVC7（※）



充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI 8（※）



バッテリー充電器
D-BC8（※）



ACコード
D-CO2J（※）

使用説明書（本書）

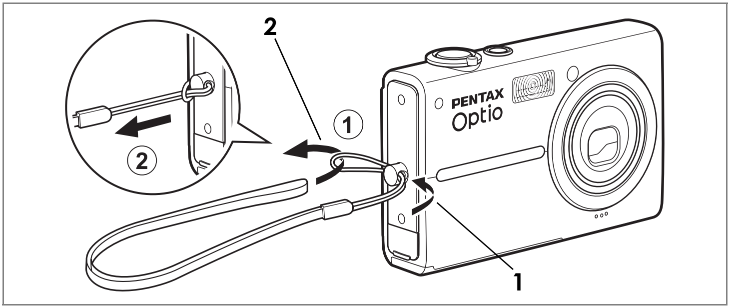
PC接続ガイド

保証書

（※）別売アクセサリーとしてもご用意しております。
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.141）をご覧ください。

ストラップを取り付けます

付属のストラップを取り付けます。



1 ストラップの細いひもの部分（①）を、カメラ本体のストラップ取り付け部に通す

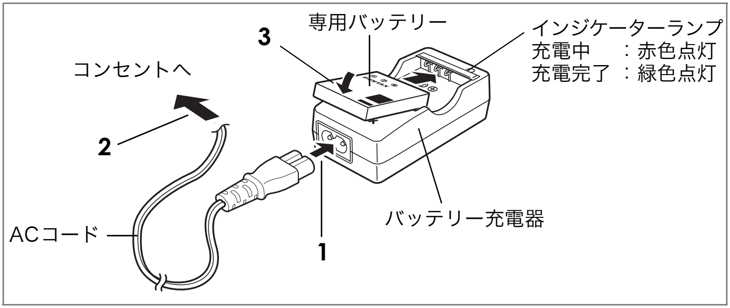
2 ストラップ端を①の輪に通して②の方向に引っぱる

メモ

スタイラスペンをストラップに取り付けて持ち歩くこともできます。

バッテリーをセットします

バッテリーを充電します



はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 専用バッテリーをPENTAXロゴ面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが赤色に点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが緑色に点灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

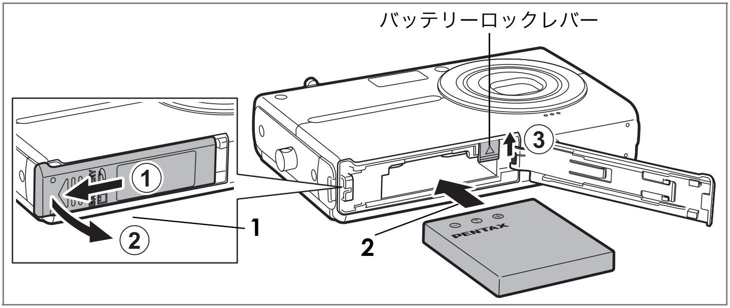
メモ

- 充電時間は、最大で約100分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください（周囲の温度や充電状態によって異なります）。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

注意

- 付属のバッテリー充電器では、専用の充電式リチウムイオンバッテリーD-LI 8以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れます



専用バッテリーを入れます。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してから入れてください。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向に引き出してから②の方向に引き上げます。

2 バッテリーのPENTAXロゴマークをカメラのレンズ側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリーを取り出します

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーロックレバーを矢印③の方向に押す

バッテリーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

注意

- このカメラの専用バッテリーは、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 8 です。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源スイッチがオンのときはバッテリーを取り出さないでください。
- カメラを長時間使用しない場合はバッテリーを取り出した状態で保管してください。
- バッテリーを長時間取り出していると、日時の設定がリセットされることがあります。

写真撮影可能枚数と再生時間の目安
(23℃・液晶モニター点灯・専用バッテリーフル充電時)

写真撮影可能枚数※1 (ストロボ使用率50%)	再生時間※2
130枚	90分

※1： 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります（CIPA 規格抜粋：液晶モニター ON、ストロボ使用率50 %、23℃）。

※2： 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

メモ

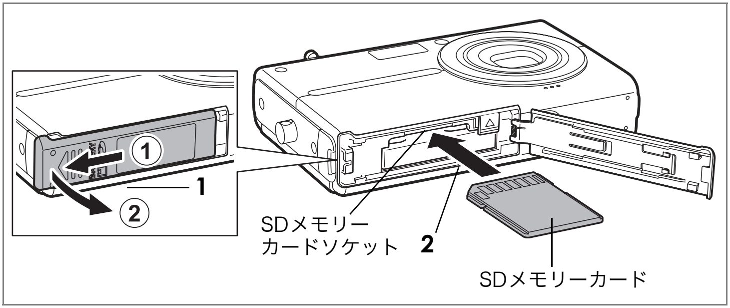
- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のおでかけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

バッテリーの残量表示

液晶モニターに表示された▭で、バッテリーの残量を確認できます。

画面表示	バッテリーの状態
▭ (緑)	バッテリー容量が十分に残っています。
▭ (緑)	バッテリー容量が少し減っています。
▭ (赤)	バッテリー容量がだいぶ減っています。
電池容量がなくなりました	メッセージ表示後、電源がオフとなります。

SDメモリーカードをセットします



このカメラでは、SDメモリーカードをご使用いただけます。SDメモリーカードをセットすると、撮影した画像や録音した音声はSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.20）。

注意

- SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。
- 未使用または他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.120）をご覧ください。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向に引き出してから②の方向に引き上げます。

2 SD メモリーカードの裏面（ラベルのない面）をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードはカチッと音がするまでしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、画像や音声が正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

メモ

- 撮影できる写真の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と写真の［記録サイズ］と［画質］の設定によって異なります（p.50、p.52）。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのおすすめ
内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをおすすめします。

SDメモリーカードを取り出します

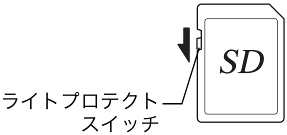
1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 SDメモリーカードを中に押し込む

SDメモリーカードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

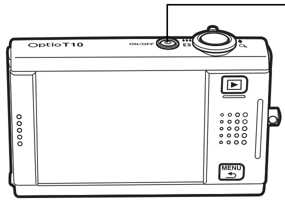
3 バッテリー／カードカバーを閉じる

SDメモリーカード使用上の注意



- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、SDメモリーカードがライトプロテクトされます。ライトプロテクトされると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまで保存したデータが保護されます。
  液晶モニターでは🔒と表示されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータ記録中や、画像・音声の再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SD メモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SD メモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SD メモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- SD メモリーカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書き込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影、再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

電源をオン／オフします



1 電源スイッチを押す

電源がオンになり、撮影できる状態（撮影モード）になります。
カメラの電源を入れたときに、「Initial Setting」画面が表示された場合は、p.21の手順に従って設定を行ってください。

2 もう一度電源スイッチを押す

電源がオフになり、電源ランプが消灯します。

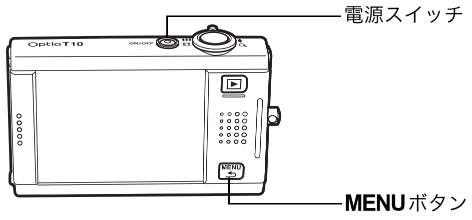
カードチェック

電源をオンにすると、カードチェックが自動的に行われ、メモリーの種類が液晶モニターに表示されます。SDメモリーカードがセットされているときはが、セットされていないときはが表示されます。が表示されているときは、画像や音声は内蔵メモリーに記録されます。

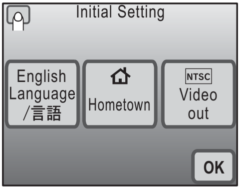
またSDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっていると、[カードがロックされています］のメッセージが表示されます。この場合、画像や音声の記録はできません。

初期設定をします

ご購入後、最初にお使いになる前に、言語と日時を設定します。



カメラの電源を入れると、「Initial Setting」画面が表示されます。次ページの手順に従って、言語と現在の日時を設定をしてください。



言語と日時を設定します

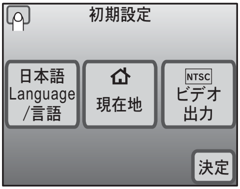
1 [Language/言語］をタッチする

「Language/言語」画面が表示されます。

2 [日本語］をタッチする

「初期設定」画面が表示されます。

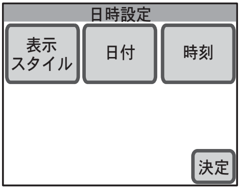
[日本語］を選択すると、[現在地］は［東京]、[ビデオ出力］は［NTSC］に自動的に設定されます。そのため、日本で使用する場合は、[現在地］と［ビデオ出力］を設定する必要はありません。



1 撮影前の準備

3 ［決定］をタッチする

「日時設定」画面が表示されます。



注意

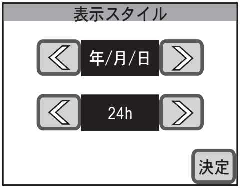
「初期設定」画面で［決定］をタッチせずに**MENU**ボタンを押すと、使用する言語が設定されないまま、次の「日時設定」画面が表示されます。この場合は、次回電源を入れたときに、再度、「Initial Setting」画面が表示されます。

［現在地］［ビデオ出力］および［表示スタイル］の各設定は、［初期設定］で選択した言語ごとに自動的に設定されます。設定を変更したいときは、以下のページをご覧ください。

- ［現在地］　　　：「［目的地］を設定する」（p.125）
- ［ビデオ出力］　：「ビデオ出力方式を選択する」（p.131）
- ［表示スタイル］：「日時を変更する」（p.121）

4 ［表示スタイル］をタッチする

「表示スタイル」画面が表示されます。



5 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、年、月、日の表示順を選ぶ

［年/月/日］［日/月/年］［月/日/年］から選択できます。

6 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、時間表示を選ぶ

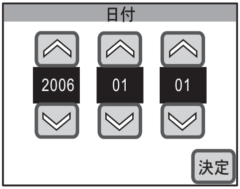
［24h］（24時間表示）または［12h］（12時間表示）から選択できます。

7 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

8 ［日付］をタッチする

「日付」画面が表示されます。



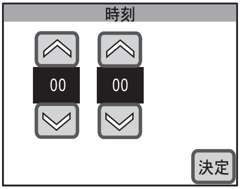
9 矢印アイコン（）をタッチして、年、月、日を設定します。

10 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

11 ［時刻］をタッチする

「時刻」画面が表示されます。



12 矢印アイコン（）をタッチして、時刻を設定する

13 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

14 ［決定］をタッチする

撮影できる状態になります。

注意

「日時設定」画面で［決定］をタッチせずに**MENU**ボタンを押すと、日時が設定されないまま、撮影できる状態になります。この場合は、次回電源を入れたときに、再度、「日時設定」画面が表示されます。

ここで設定した言語と日時は、後から変更できます。操作方法は下記のページをご覧ください。

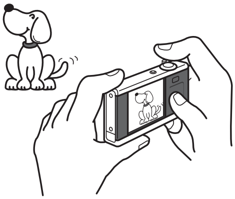
- 言語を変更したいときは：「表示言語を変更する」（p.128）
- 日時を変更したいときは：「日時を変更する」（p.121）

2 このカメラの楽しみ方

写真を楽しむ

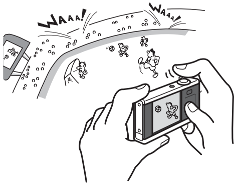
このカメラでは、カメラを構えて構図を決め、シャッターを切るだけできれいな写真が撮影できます。また、撮影した写真の再生や加工も、液晶モニターに直接タッチする簡単操作で行えます。写真の撮影から再生、加工まで、一連の流れを体験してみましょう。

1 カメラを構えます



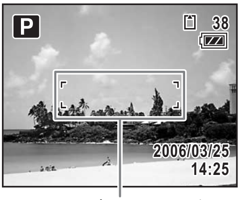
電源をオンにしたら（p.20）、カメラを構えましょう。手ぶれを防ぐために、カメラは両手でしっかりと持って構えてください。

2 構図を決めます



液晶モニターで構図を確認します。
撮影する範囲は、ズームレバーを使って変えることができます（p.45）。

3 ピントを合わせます



フォーカスフレーム

シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

- ピントが合わないときは、フォーカスフレームは表示されません。

メモ

シャッターボタンを軽く押した状態を「半押し」といいます。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合う位置と露出（明るさ）が固定されます。このとき、シャッターボタンから指を離すと、ピントが合う位置と露出の固定が解除されます。

4 撮影します

シャッターボタンを半押しした状態から深く押し切ると、ピント位置と露出が固定されたまま撮影されます。
撮影された画像は、液晶モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、保存されます。

- クイックビューの時間は、調整できます（p.73）。また、クイックビュー中に 🗑 アイコンをタッチすると、写真を保存せずに消去できます。

メモ

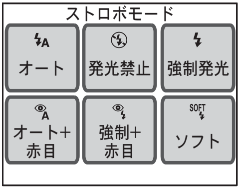
- シャッターボタンを深く押し切ることを「全押し」といいます。
- セルフタイマー（p.69）やリモコン（p.70）を使ってシャッターを切ったり、シャッターを全押ししたときに連続して撮影する（p.72）こともできます。

ストロボを上手に使うには

初期状態では、暗いときにストロボが自動的に発光します。
ストロボを発光させたくないときや明るさを弱めたいとき、人物が赤目になるのを防ぎたいときなどは、ストロボモードの設定を変更しましょう（p.56）。

＜ストロボを設定するには＞

▶ 液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］で ⚡A をタッチ



5 再生します

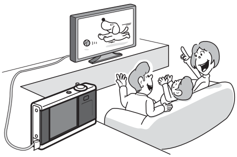
撮影後に ▶ ボタンを押すと、再生モードに切り替わり、撮影した写真が液晶モニターに表示されます（p.74）。矢印アイコン（≪≫）をタッチすると、前後の画像を表示できます。
再生モードでは、拡大（p.79）、消去（p.88）、回転表示（p.78）、9画面表示（p.80）、スライドショウ（p.84）が行えます。

＜再生時の操作を選択するには＞

▶ 再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］で選択

TVで楽しむ

撮影した写真は、カメラで見るだけではなく、テレビなどのAV機器に映すこともできます。みんなでワイワイと、テレビの大きな画面で見るのも楽しいでしょう（p.86）。

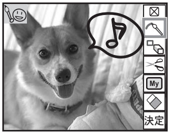


6 加工します

撮影した写真は、加工して楽しむことができます（p.93）。
サイズと画質の変更（p.93）やトリミング（p.94）のほか、写真に絵を描く（p.95）、スタンプを押す（p.95）、フレームを付ける（p.99）、明るさを変える（p.102）、音声を付ける（p.105）、人物の赤目を補正する（p.104）などの加工ができます。

＜加工方法を選択するには＞
▶ 再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］でをタッチ

多彩な加工機能



デジタルフィルタ
写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、横幅を変え、やせた感じや太った感じにしたりできます（p.103）。

お絵かきモード
付属のスタイラスペンを使って写真に絵を描いたり、スタンプを押したり、一部を切り取ってスタンプにしたりできます（p.95）。

＜加工方法を選択するには＞
▶［再生モードパレット］でをダブルタッチ→、をタッチ

写真撮影のヒント

撮影条件を調整してみましょう

撮影条件を自分で調整して、撮影意図をカメラに反映させることもできます。

- 写真の記録サイズと画質は、用途に合わせて変更できます（p.93）。
  ▶MENUボタン→［撮影1］→［記録サイズ］、［画質］
- 写真の明るさを調整できます。
  「露出を補正する」（p.53）　**▶MENUボタン→［撮影2］→［露出補正］**
  「測光方式を選ぶ」（p.55）　**▶MENUボタン→［撮影1］→［測光方式］**
- 写真の色合いを調整できます。
  「色合いを調整する」（p.58）　**▶MENUボタン→［撮影1］→［ホワイトバランス］**

その他、写真のシャープネス／彩度／コントラストも調整できます（p.60）。

シーンに合った撮影モードを選びましょう

撮影するシーンに合った撮影モードを選択するだけで、手軽にぴったりの雰囲気の写真が撮影できます。
写真用の撮影モードとして、プログラム、夜景、風景、花、ポートレート、サーフ&スノー、スポーツ、ペット、料理、フレーム合成が用意されています（p.42）。

＜撮影モードを選択するには＞

▶ 液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］でPをタッチ

動画を楽しむ

このカメラでは、テレビやパソコンでの視聴に最適な音声付きの動画（640×480ピクセルで30フレーム／秒）を、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーの容量いっぱいまで撮影できます。また、撮影した動画は、その場で手軽に編集して楽しめます。

- 320×240ピクセルや15フレーム／秒の動画も撮影できます。

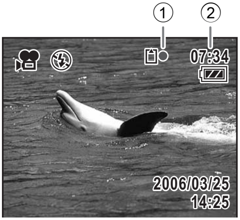
1 動画撮影モードに切り替えます

動画を撮影するには、撮影モードパレットを使って動画撮影モードに切り替えます。

＜動画撮影モードに切り替えるには＞

▶ 撮影モードで液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］でPをタッチ→をダブルタッチ

2 撮影します



シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

次に、シャッターボタンを全押しすると、撮影が終了します。

撮影中、液晶モニターには左の情報が表示されます。

①録画中アイコン

②撮影可能時間

3 再生します

撮影後に▶ボタンを押すと、再生モードに切り替わり、撮影した動画が液晶モニターに表示されます。
再生モードでは、逆方向に再生、一時停止、音量の調整、コマ戻しやコマ送りができます（p.82）。

4 加工します

撮影した動画の1コマを静止画に保存（p.107）できます。

<動画の加工方法を選ぶには>

▶ **液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］で をタッチ→ をダブルタッチ**

動画撮影でできること、できないこと

<できること>

- 撮影開始前の構図決定には、光学ズームとデジタルズームの両方が使用できますが、撮影中はデジタルズームのみ使用可能です（p.45）。
- シャッターボタンを押し続けている間（1秒以上）、撮影できます。
- ［記録サイズ］［フレームレート］［画質］を変更できます（p.51）。
- ［ホワイトバランス］［シャープネス］［彩度］［コントラスト］を設定できます（p.58、p.60）。
- 撮影前のみ、［露出］を補正できます（p.53）。

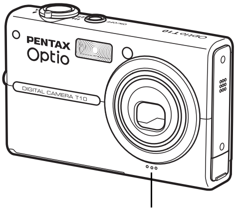
<できないこと>

- ［ストロボモード］［連続撮影］は使えません。
- 以下の撮影条件は、変更できません。
  ［AFエリア］：「スポット」（p.65）
  ［フォーカスリミット］：「オフ」（p.66）
  ［AF補助光］：「オフ」（p.66）
  ［測光方式］：「中央部重点測光」（p.55）
  ［感度］：「オート」（p.67）

録音して楽しむ

このカメラでは、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーの容量いっぱいまで、音声を録音できます。録音時にインデックスを付け、聞きたいところをすばやく呼び出すことも可能。また、写真に音声メモを付けることもできます。

1 ボイスレコーディングモードに切り替えます



マイク

音声を録音するには、[撮影モードパレット]を使ってボイスレコーディングモードに切り替えます。

<ボイスレコーディングモードに切り替えるには>

▶ 撮影モードで液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］でPをタッチ→🎙をダブルタッチ

2 録音します

シャッターボタンを全押しすると、録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプが点滅します。

録音中にシャッターボタンを全押しすると、録音が終了します。

録音中、液晶モニターには以下の情報が表示されます。

①録音時間

②録音可能時間

インデックスを使って快適再生

録音中に液晶モニター上の［インデックス］をタッチすると、録音中の音声にインデックスを付けることができます。ポイントとなる個所にインデックスを付けておくと、再生時にすばやく目的の個所に飛ぶことができ、後からチェックしたいときなどに便利です。

- 再生中にインデックスを付けることはできません。

3 再生します

録音後に ▶ ボタンを押すと、再生モードに切り替わります。
再生モードでは、早送り、早戻し、音量の調整ができます。録音中にインデックスを付けた場合は、インデックスまでの早送り、早戻しが可能です（p.83）。

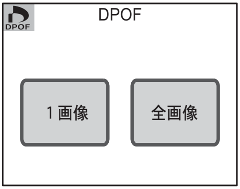
写真に音声メモが付けられます

撮影した写真に60秒間まで音声メモを付けることができます。どんな場面だったのかがわかるように音声メモを付けておけば、写真の整理に役立ちます（p.105）。

印刷して楽しむ

気に入った写真や加工した写真は、プリントして残しておくこともできます。カメラでプリント枚数や日付プリントの有無を設定し、プリントサービス店に依頼することができます。また、カメラとプリンターを直接つないでプリントすることも可能。友人や知人に贈ったり、思い出を手元に残すなど、写真の楽しみがさらに広がります。

1 プリント予約します



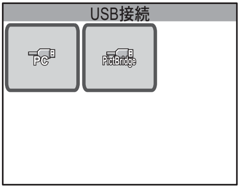
プリントしたい写真は、あらかじめプリント枚数や日付プリントの有無を「プリント予約」しておきましょう（DPOF設定）（p.110）。
プリント予約（DPOF設定）した写真は、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でプリントできます。

- プリントサービス店を利用する場合は、プリント予約した写真が入ったSDメモリーカードを持ち込んで、プリントを依頼してください。

＜DPOF設定するには＞

▶ 再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］で をタッチ→ をダブルタッチ

2 [USB接続]モードを設定します

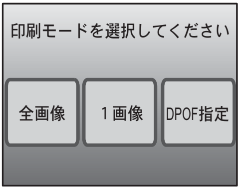


付属のUSBケーブルでカメラをPictBridge対応プリンターに接続すると、パソコンを使わなくてもカメラからダイレクトに写真をプリントできます。
カメラとプリンターをつないでプリントするためには、事前に、カメラの［USB接続］モードを「PictBridge」に設定しておく必要があります（p.130）。

＜カメラの［USB接続］モードを設定するには＞

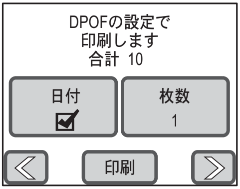
▶ MENUボタンを押す→［その他］をタッチ→［USB接続］をタッチ

3 プリンターに接続します



付属のUSBケーブルで、カメラとPictBridge対応プリンターを接続します。プリント枚数と日付プリントの有無の設定は、プリント予約（DPOF設定）していなくても、プリント時にカメラ側で設定することもできます（p.113）。

4 印刷します



事前にDPOF設定してある場合は、［DPOF指定］をタッチして表示された画面で、［印刷］をタッチするだけで、プリントできます（p.116）。また、1枚ずつプリントしたり（p.114）、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内のすべての写真をまとめてプリントすることもできます（p.116）。
プリントが終わったら、カメラの電源をオフにし、カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外します。

写真に日付が入れられます

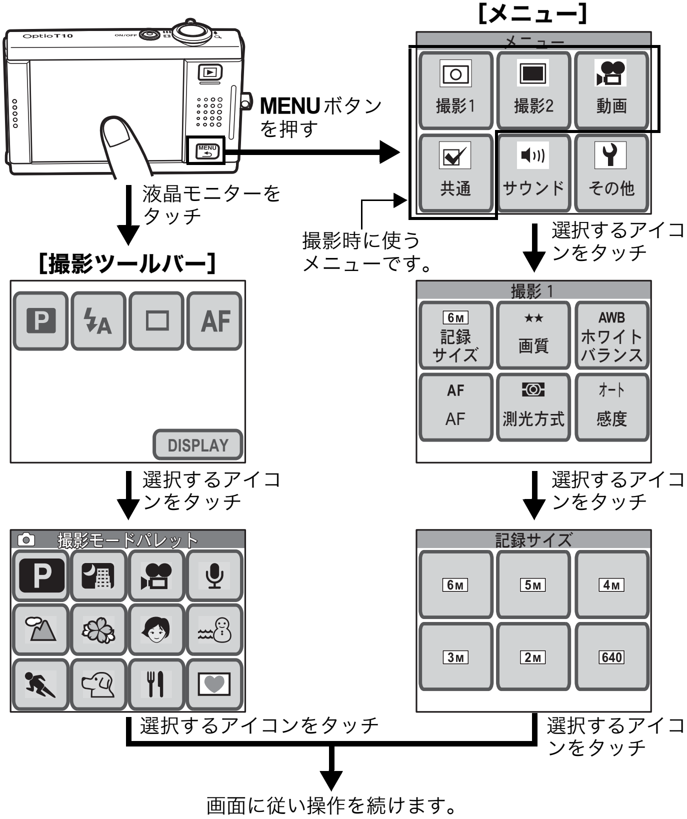
写真に日付を入れておけば、いつ撮った写真か一目でわかります。日付を入れる設定は、DPOF設定をするときと印刷するときにできます（p.110、p.114、p.116）。

- プリンターによっては、日付プリントができないものもあります。

3 撮影する

撮影のための機能を設定する

撮影モードで**MENU**ボタンを押す、または液晶モニターにタッチして設定します。



- ［撮影モードパレット］でアイコンをタッチすると、ガイド画面が表示されます。ガイド画面の表示を省略したいときは、ダブルタッチします。
- シャッターボタンを押すか、一定時間以上、何も操作をしないと、撮影画面に戻ります。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に切り替わります。
- **MENU**ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

［撮影ツールバー］から設定する機能

項目	内容	初期状態	参照
撮影モード	撮影状況や被写体に合わせて撮影モードを選びます。	P（プログラム）	p.42
ストロボモード	撮影状況に合わせてストロボの発光方法を選びます。	（オート）	p.56
ドライブモード	セルフタイマー、連続撮影、リモコンの設定をします。	□（標準）	p.69、p.70、p.72
フォーカスモード	ピントの合わせ方を選びます。	**AF**（標準）	p.63
情報表示	液晶モニターにどんな情報を表示するかを設定します。	標準	p.40

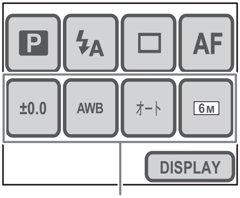
［メニュー］から設定する機能

項目			内容	初期状態	参照
撮影1	記録サイズ		写真の記録サイズを選びます。	6M（2816×2112）	p.49
	画質		写真の画質を選びます。	★★（ファイン）	p.49
	ホワイトバランス		撮影時の光の状態に応じて色を調整します。	**AWB**（オート）	p.58
	AF	AFエリア	ピントを合わせる位置を選びます。	［　］（マルチ）	p.65
		フォーカスリミット	ピント合わせの範囲を制限します。	オン	p.66
		AF補助光	暗いときにAF補助光を使用するかどうかを設定します。	オン	p.66
	測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	（分割測光）	p.55
	感度		感度を設定します。	オート	p.67
撮影2	露出補正		写真と動画の明るさを調整します。	±0.0	p.53
	クイックビュー		撮影直後の画像表示の時間を設定します。	1秒	p.73
	シャープネス		被写体の輪郭をくっきりまたはソフトにします。	（標準）	p.60
	彩度		色の鮮やかさを調整します。	（標準）	p.60
	コントラスト		明暗差の度合いを調整します。	（標準）	p.60

項目		内容	初期状態	参照
動画	記録サイズ	動画の記録サイズを選びます。	640（640×480）	p.51
	画質	動画の画質を選びます。	★★★（S.ファイン）	p.51
	フレームレート	フレームレート（1秒間に撮る画面数）を設定します。	30fps	p.51
共通	デジタルズーム	デジタルズームを使うかどうかを設定します。	オン	p.46
	モードメモリ	電源オフ時に撮影機能の設定値を記憶させるか、初期状態に戻すかを設定します。	ストロボモード、デジタルズーム、ファイルNo.のみオン	p.38
	Fn設定	よく使う機能をすばやく呼び出せるようにします。	OFF（オフ）	p.36

よく使う機能をすばやく呼び出す

[撮影ツールバー] には、撮影のための機能を、写真撮影時と動画撮影時でそれぞれ4つ追加登録することができます。よく使う機能を登録しておくと、撮影時にすばやく呼び出せて便利です。



追加登録した機能

写真撮影時／動画撮影時に呼び出せる機能

項目		写真撮影時	動画撮影時
撮影1／動画	記録サイズ	○	○
	画質	○	○
	フレームレート	—	○
	ホワイトバランス	○	○
	AFエリア	○	×
	フォーカスリミット	○	×
	測光方式	○	×
	感度	○	×
撮影2	露出補正	○	○
	シャープネス	○	○
	彩度	○	○
	コントラスト	○	○

[撮影ツールバー]に登録する

1　MENUボタンを押す

[メニュー]が表示されます。

2　[共通]をタッチする

「共通」画面が表示されます。

3　[Fn設定]をタッチする

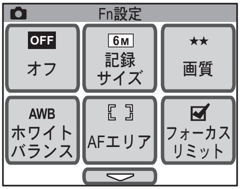
「Fn設定」画面が表示されます。

4　機能を登録するアイコンをタッチする

写真撮影時に呼び出したい機能を登録する場合は、の下のアイコンをタッチします。

動画撮影時に呼び出したい機能を登録する場合は、の下のアイコンをタッチします。

5　登録する機能のアイコンをタッチする



- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。
- 登録する機能が表示されていないときは、アイコンをタッチして、画面を切り替えます。

6　手順4～5を繰り返し、必要な機能を登録する

7　MENUボタンを3回押す

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

[撮影ツールバー]への機能の登録をキャンセルするには、手順5で OFF（オフ）をタッチします。

設定を保存する（モードメモリ）

下記の機能は、カメラの電源をオフにした際に、電源オフの直前の設定内容を記憶させるかどうかを選択できます。「モードメモリ」機能をうまく活用すれば、同じ撮影条件で撮影したいときなどに、設定の手間が省けます。
下記以外の撮影のための機能は、電源をオフにした後も、常に設定内容が記憶されます。

項目	記憶される設定内容	初期状態
ストロボモード	⚡A（自動発光）以外に変更した場合のストロボモード	☑
ドライブモード	セルフタイマー、連続撮影、リモコンのいずれかに切り替えた場合の設定	□
フォーカスモード	**AF**（標準）以外に変更した場合の設定	□
ズーム位置	ズームレバーで変更したズーム位置	□
MF位置	マニュアルフォーカスでピントの合う距離	□
ホワイトバランス	**AWB**（オート）以外に変更した場合の設定	□
測光方式	（分割測光）以外に変更した場合の設定	□
感度	[オート] 以外に変更した場合の感度の値	□
露出補正	「±0.0」以外に変更した場合の設定値	□
デジタルズーム	デジタルズームを「オフ」にした場合の「オフ」設定	☑
DISPLAY	液晶モニターの表示内容	□
ファイルNo.	SDメモリーカードを入れ替えた場合でも、連番でファイル名を作成	☑

- ☑（オン）を選択すると、電源をオフにしても設定を保存します。□（オフ）を選択すると、電源をオフにしたときに、設定が初期状態に戻ります。
- デジタルズーム領域で設定したズーム位置は、[モードメモリ]の[ズーム位置] を「オン」にしても保存されません。

1 MENUボタンを押す

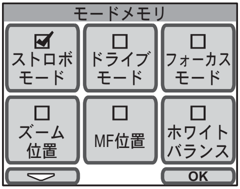
［メニュー］が表示されます。

2 ［共通］をタッチする

「共通」画面が表示されます。

3 ［モードメモリ］をタッチする

「モードメモリ」画面が表示されます。



4 設定を変更する項目をタッチする

- ☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。
- 変更する項目が表示されていないときは、▽アイコンをタッチして、画面を切り替えます。

5 ［OK］をタッチする

6 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

撮影情報を確認する

撮影時の液晶モニターの表示内容は、以下の4通りから選択できます。表示内容の詳細は、表紙裏の「画面の表示」をご覧ください。

[標準]

[標準+ヒストグラム]

[情報表示なし]

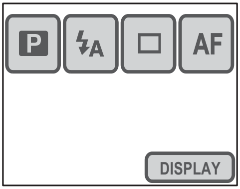
[LCDオフ]

メモ

- [LCD オフ] のときにも、すべてのボタンは使用できます。シャッターボタンを押せば、撮影できます。
- 手ぶれしやすい条件のとき、が表示されます。手ぶれを防ぐ方法については、p.62をご覧ください。
- ヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認できます（p.54）。
- [情報表示なし] のときでも、ストロボが発光する場合は、シャッターボタン半押し時に（ストロボアイコン）が表示されます。

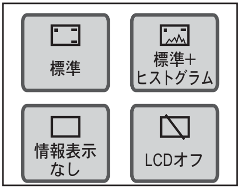
1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。



2 ［DISPLAY］をタッチする

表示内容の選択画面が表示されます。



3 表示内容をタッチする

設定が保存され、撮影できる状態になります。

撮影モードを選ぶ

シーンに合わせて撮影モードを選ぶ

撮影するシーンに合った撮影モードを選択するだけで、手軽にぴったりの雰囲気の写真が撮影できます。写真用の撮影モードは、以下の通りです。

アイコン	撮影モード	内容	使えない機能
P	プログラム	シャッター速度と絞り値をカメラが自動的に設定して写真を撮影します。その他の撮影条件は、自由に設定できます。	なし
	夜景	シャッター速度を遅くして、夜景をきれいに撮影します。手ぶれを防ぐため、三脚などで固定して撮影してください。人物も入る場合は、ストロボを発光させてください（p.44）。	
	風景	近景から遠景まで広い範囲にピントが合うように撮影します。	ホワイトバランス、シャープネス、彩度、コントラスト
	花	花の輪郭をやわらかめに表現します。	
	ポートレート	人物の肌色を明るく健康的に仕上げます。	
	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。	
	スポーツ	シャッター速度を速くして、動きの速いものをブレずに撮影しやすくします。	
	ペット	ペットの毛色に合わせた撮影をすることもできます（p.44）。	
	料理	彩度をやや高めにして、料理を色鮮やかに撮影します。	
	フレーム合成	カメラに保存されているフレーム（飾り枠）に合わせて撮影します（p.47）。	連続撮影、記録サイズ

メモ

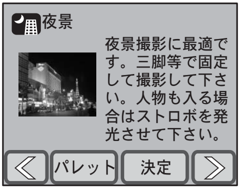
- 撮影モードが（スポーツ）または（ペット）のとき、[ストロボモード] は（発光禁止）に設定されます。[ストロボモード] は変更可能です。
- 撮影モードが（花）のとき、[フォーカスリミット] は「オフ」に設定されますが、変更は可能です。
- 撮影モードが（フレーム合成）のとき、[記録サイズ] は 3M に固定されます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

[撮影ツールバー] が表示されます。

2 P（撮影モード）アイコンをタッチする

- [撮影ツールバー] の P の部分には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- [撮影モードパレット] が表示されます。



3 使用する撮影モードのアイコンをタッチする

選択した撮影モードのガイド画面が表示されます。

- ガイド画面の表示を省略したいときは、アイコンをダブルタッチします。撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
- 矢印アイコン（《》）をタッチすると、前後の撮影モードが表示されます。
- [パレット] をタッチすると [撮影モードパレット] に戻ります。

4 [決定] をタッチする

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

ガイド画面は、表示させないようにもできます（p.135）。

暗いところで撮影する

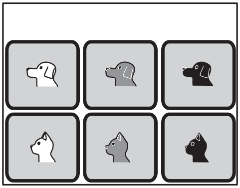
夕景や夜景など、光の少ない暗いところで写真を撮るには、長時間シャッターを開けて、光を取り込む必要があります。このカメラには、そんなシーンに最適な撮影モードとして（夜景）モードが用意されています。夜景モードでは、シャッター速度を遅くして、夜景をきれいに撮影します。また、夜景をバックに人物を撮影する場合にストロボを発光させても、シャッター速度が速くならないので、人物も夜景もきれいに撮影できます。

メモ

- 暗いところでの撮影では、シャッター速度が遅くなるため、手ぶれしやすくなります。手ぶれしやすいシャッター速度では、画面に（手ぶれ警告）が表示されます。手ぶれを防ぐためには、三脚やセルフタイマー、リモコンを使っての撮影が有効です。
- 暗いところでストロボを使わずに撮影するには、[感度] の設定を高くする方法もあります。[感度] を高くすると、シャッター速度が速くなり、手ぶれや被写体ぶれを防ぎやすくなります。ただし、画像にノイズが増えます（p.67）。

ペットを撮影する

（ペット）モードでは、撮りたいペットの毛色が白っぽいか、黒っぽいか、中間色かでアイコンの色を選んでください。犬アイコンと猫アイコンは、絵柄が違うだけで、撮影結果に与える効果は同じです。お好みで使い分けてください。



構図を決める

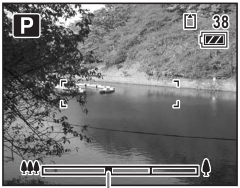
ズームを使う

ズームを使わないとき（広角側）は、遠くのものはより小さく遠近感を強調して、立体感を演出できます。ズームを使うと（望遠側）では、遠くのものが大きく写り、遠近感がなくなります。

1　撮影モードでズームレバーを 🌲 側または🌲🌲🌲側に回す

🌲望遠　：写る範囲を狭くし、被写体を大きくします。

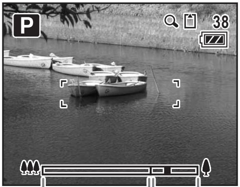
🌲🌲🌲広角：写る範囲を広くし、被写体を小さくします。



ズームバー

🌲 側に回す

[デジタルズーム] が「オフ」のときは、3倍までの光学ズーム撮影が可能です。[デジタルズーム] が「オン」のときは、光学ズームと合わせて、被写体を最大約12倍相当まで拡大して撮影できます。



光学ズーム領域　デジタルズーム領域

注意

[フォーカスモード] が🌷（マクロ）に設定されているときは、光学ズームは使用できません（デジタルズームは使用できます）。

メモ

- 拡大倍率が大きくなると、手ぶれしやすくなります。手ぶれを防ぐためには、三脚やセルフタイマー、リモコンを使っての撮影が有効です。
- デジタルズームを使って撮影すると、光学ズームを使って撮影したときよりも、画像が粗くなります。

3 撮影する

[デジタルズーム]を設定する

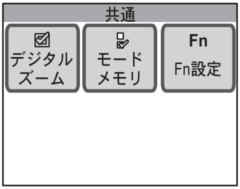
初期状態では、[デジタルズーム]は「オン」になっています。光学ズームだけを使って撮影したいときは、「オフ」に設定します。

1　MENUボタンを押す

[メニュー]が表示されます。

2　[共通]をタッチする

「共通」画面が表示されます。



3　[デジタルズーム]をタッチする

☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。

4　MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

フレーム撮影する

カメラ内に保存されているフレーム（飾り枠）に合わせて構図を決め、撮影することができます。あらかじめ7種類のフレームが用意されています。

1　撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2　P（撮影モード）アイコンをタッチする

- Pの部分には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- ［撮影モードパレット］が表示されます。

3　♥アイコンをダブルタッチする

- フレーム選択画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

4　矢印アイコン（《》）をタッチして使用するフレームを選び、［決定］をタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。

5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

- フレーム撮影には、内蔵メモリーに保存されているフレームが使用されます。それらのフレームは、フレーム選択画面で［変更］をタッチすると、SDメモリーカード内に保存されているフレームと置き換え可能です(p.100)。
- フレーム撮影時の記録サイズは3Mに固定されます。
- フレーム撮影モードに入る前の記録サイズが3M以外の場合は、他の撮影モードに変更すると、元の記録サイズに戻ります。

サイズ・画質・明るさ・色などを調整する

このカメラは、特別な設定をしなくても、自動的に明るさや色合いを調整してきれいな写真や動画を撮ることができます。しかし、思い通りの写真や動画を撮影するには、撮影条件を自分で調整することが必要なときもあります。ここでは、さまざまな撮影条件の設定について説明します。

サイズと画質

写真や動画の用途によってサイズと画質を設定します（p.49）。

明るさ

写真の明るさ（露出）は、光を取り込む量（絞り値）と取り込む時間（シャッター速度）によって決まります。カメラが設定した絞り値とシャッター速度による明るさ（露出）が意図に合わないときは、[露出補正］を使って自分で調整します（p.53）。

また、被写体のどの部分の光を測って写真の明るさ（露出）を決めるかは、[測光方式］で設定します（p.55）。

暗いところで撮影するときは、ストロボを使って被写体を明るく写すことができます（p.56）。ストロボを使わずに自然な明るさで撮りたいときは、[感度］を設定します（p.67）。

色合い（ホワイトバランス）

カメラの自動調整では、適切な色合いに撮影できないときや、写真の赤みや青みを意図的に強調したいときは、[ホワイトバランス] を設定します（p.58）。

シャープネス／彩度／コントラスト

被写体の輪郭を強調したいときやソフトにしたいときは[シャープネス]を、色の鮮やかさを調整したいときは［彩度］を、明暗差を調整したいときは［コントラスト］を変更します（p.60）。

記録サイズ、画質、フレームレートを設定する

写真や動画の［記録サイズ］（横×縦の大きさ）と［画質］（データ圧縮率）、［フレームレート］（動画撮影時の1秒間の画面数）は、用途に応じて設定します。
［記録サイズ］の数値や［画質］の★の数は、多くなるほど写真をプリントしたときや動画を再生したときに鮮明な画像を撮影することができます。また、［フレームレート］は大きくなるほど動画の動きがなめらかになります。ただし、ファイルサイズが増えるので、撮影できる枚数や動画の記録時間は少なくなります。
用途に応じて適切な［記録サイズ］［画質］［フレームレート］を設定してください。

写真の場合

選べる記録サイズと適した用途

アイコン	記録サイズ	鮮明、きれい ↑	用途
6M	2816×2112		フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
5M	2592×1944		
4M	2304×1728		
3M	2048×1536		
2M	1600×1200		はがきサイズプリントなど
640	640× 480		ホームページ掲載、電子メール添付など

選べる画質と適した用途

★	画質	用途
★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、A4以上の大判プリントに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、L判の写真プリントやパソコンの画面で画像を見るときに適しています。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［記録サイズ］をタッチする

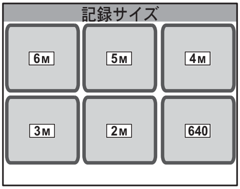
「記録サイズ」画面が表示されます。

4 設定する記録サイズをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

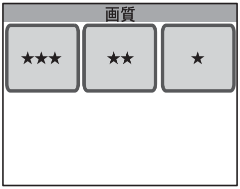
5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。



［画質］を設定するには

手順3で［画質］をタッチして設定します。



メモ

- 撮影モードが♥（フレーム合成）のとき、［記録サイズ］は3Mに固定されます。
- プリントした写真の美しさ、鮮明さには、使用するプリンターの解像度なども関係してきます。

記録サイズ／画質と撮影可能枚数の目安

	★★★ (S.ファイン)		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB
6M 2816×2112	3枚	35枚	7枚	73枚	10枚	103枚
5M 2592×1944	4枚	42枚	8枚	82枚	12枚	124枚
4M 2304×1728	5枚	53枚	10枚	103枚	15枚	155枚
3M 2048×1536	6枚	68枚	12枚	130枚	18枚	190枚
2M 1600×1200	10枚	103枚	17枚	177枚	26枚	275枚
640 640× 480	39枚	414枚	66枚	690枚	92枚	966枚

- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

動画の場合

選べる記録サイズと適した用途

640 640×480	テレビやパソコンの画面で動画を見るときに適しています。
320 320×240	電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

選べる画質と適した用途

★★★	S.ファイン	鮮明な画像になります。
★★	ファイン	↕
★	エコノミー	粗い画像になります。

選べるフレームレートと適した用途

30fps	動きがなめらかになります。
15fps	記録時間が長くなります。

1 MENUボタンを押す

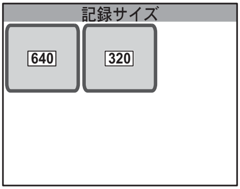
［メニュー］が表示されます。

2 ［動画］をタッチする

「動画」画面が表示されます。

3 ［記録サイズ］をタッチする

「記録サイズ」画面が表示されます。



4 設定する記録サイズをタッチする

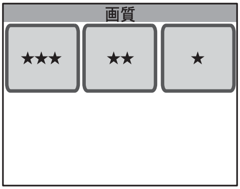
設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

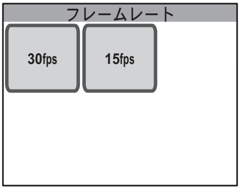
5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

[画質] ／ [フレームレート] を設定するには

手順3で [画質] または [フレームレート] をタッチして設定します。





記録サイズ／画質／フレームレートと撮影可能時間の目安

		30fps		15fps	
		内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB
640 640×480	★★★	4秒	48秒	9秒	1分36秒
	★★	6秒	1分9秒	13秒	2分17秒
	★	10秒	1分50秒	21秒	3分40秒
320 320×240	★★★	18秒	3分12秒	36秒	6分24秒
	★★	26秒	4分35秒	52秒	9分7秒
	★	42秒	7分19秒	1分23秒	14分32秒

- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

露出を補正する

写真と動画の明るさを調整します。

1 MENUボタンを押す

[メニュー] が表示されます。

2 [撮影2] をタッチする

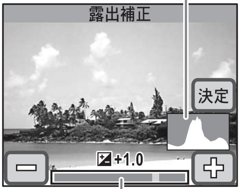
「撮影2」画面が表示されます。

3 [露出補正] をタッチする

「露出補正」画面が表示されます。

4 ⊟または⊞アイコンをタッチして露出補正量を調整する

- 明るくする場合は⊞アイコンを、暗くする場合は⊟アイコンをタッチします。露出補正量は、–2.0 EV～+2.0 EVまでの範囲を1/3 EV単位で選択できます。
- 露出補正バーをドラッグして調整することもできます。
- ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表すグラフです（p.54）。



5 [決定] をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

カメラは、明るめのグレーを基準に被写体の明るさを調整します。そのため、露出補正をしない状態では、白い雪景色を撮影しても、黒いピアノを撮影しても、灰色に写ります。黒いものを黒く写したいときは、露出を⊟側に、白いものを白く写したいときは、露出を⊞側に補正します。

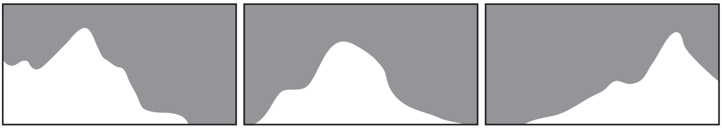
ヒストグラムを使う

このカメラには、画像の明るさの分布を表すグラフ（ヒストグラム）を表示する機能があります。ヒストグラムの横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影前や撮影後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断にご利用いただけます。
☞「撮影情報を確認する」（p.40）、「撮影情報を表示させる」（p.76）

画像の明るさを見る

明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

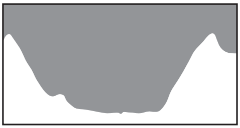
暗い画像　　適正な明るさの画像　　明るい画像



画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりもさらに左に来てしまう部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右に来てしまう部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
露出補正をするときは、黒つぶれや白とびが発生しないように、分布がグラフ内に収まり、左右に偏らないような露出にします。

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部になだらかな山のピークが来ます。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークが来て、中央部分がくぼんだグラフになります。



測光方式を選ぶ

画面のどの部分の光を測って露出（明るさ）を決めるかを設定します。

測光方式

	分割測光	画面全体をきめ細かく測光して、カメラが適正な露出を決めます。明るい部分と暗い部分が入り組んだ複雑な被写体でも比較的適正な露出を得ることできます。
	中央部重点測光	画面の中央部に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。画面の周辺に明るいものや暗い部分があるときでも、中央部を適正な露出で撮影できます。
	スポット測光	画面の中央のみを測光して露出を決めます。画面内の特定の被写体を適正な露出で撮影したいときなどに利用します。

1 MENUボタンを押す

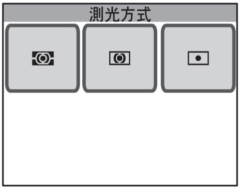
［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［測光方式］をタッチする

「測光方式」画面が表示されます。



4 設定する測光方式をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

- 測光は、シャッターボタンを半押ししたときに行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を「スポット測光」を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードが （動画）のときは、「中央部重点測光」に固定され、変更できません。

ストロボを使う

ストロボモード

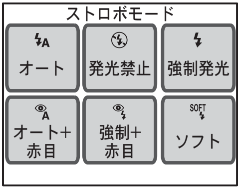
	オート	暗いときや逆光のときにストロボを発光します。
	発光禁止	明るさにかかわらず、常にストロボを発光しません。
	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
	オート+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。ストロボは暗いときや逆光のときに発光します。
	強制+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。ストロボは常に発光します。
SOFT	ソフト	ストロボの光量を絞り、近い距離でストロボを発光しても、明るすぎないようにします。ストロボは常に発光します。

1　撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2　（ストロボモード）アイコンをタッチする

- の部分には、現在選択中の［ストロボモード］のアイコンが表示されます。
- 「ストロボモード」画面が表示されます。



3　設定するストロボモードをタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

- ストロボの光が十分に届くのは、ズームを使っていない状態で約0.15mから約4.5mの範囲です（光学3倍ズームを使っているときは、約0.4mから約2.5mの範囲）。被写体からの距離が遠すぎるとストロボの光は届かず、近すぎると露出が正しく調整されません。感度を高くする（p.67）とストロボが有効な距離が延びます。
- 暗いところでストロボを使わずに撮影するには、［感度］の設定を高くする方法もあります。［感度］を高くすると、シャッター速度が速くなり、手ぶれや被写体ぶれを防ぎやすくなります。ただし、画像にノイズが増えます（p.67）。

- 撮影モードが（動画）、［ドライブモード］が（連続撮影）、［フォーカスモード］が（無限遠）に設定されているとき、［ストロボモード］は常に（発光禁止）になります。
- ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物をストロボを使って撮影するときは、赤目にならないように、［ストロボモード］を（オート+赤目）や（強制+赤目）にしましょう。また、人物の周りを明るくしたり、ズームを使わないで近くから撮影するのも、赤目を防ぐために有効です。それでも赤目になってしまったときは、再生時に赤目補正機能を使って修正しましょう（p.104）。
- ［ストロボモード］を（オート+赤目）や（強制+赤目）にしたときは、本発光の前にプリ発光（予備発光）が行われます。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

［ホワイトバランス］とは、白いものが白く写るように、撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。カメラの自動調整が思い通りにいかないときや、写真の赤みや青みを意図的に強調したいときに設定します。

AWB	オート	カメラが自動的に色合いを調整します。
	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	マニュアル	撮影時の光の状態で白いものが白く写るように、手動でホワイトバランスを調整します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［ホワイトバランス］をタッチする

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4 矢印アイコン（《》）をタッチして、設定するホワイトバランスを選ぶ

5 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

夕焼けや朝焼けを撮影するときに（日陰）に設定すると、赤みを強調した写真が撮影できます。

手動でホワイトバランスを設定する（マニュアル）

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1 「ホワイトバランス」画面で［マニュアル］を選ぶ

［調整］と調整枠が表示されます。

2 ホワイトバランスの調整に用いる素材（白い紙など）にレンズを向け、画面中央の調整枠いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3 ［調整］をタッチする

ホワイトバランスが調整されます。調整が完了すると、［完了］と表示されます。

4 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

（マニュアル）を選択中、［調整］をタッチせずに［決定］をタッチすると、前回調整した値が引き続き使用されます。

シャープネス／彩度／コントラストを調整する

被写体の輪郭を強調したいときやソフトにしたいときは[シャープネス]を、色の鮮やかさを調整したいときは［彩度］を、明暗差を調整したいときは［コントラスト］を変更します。

1 MENUボタンを押す

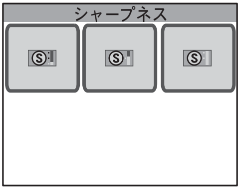
［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影2］をタッチする

「撮影2」画面が表示されます。

3 ［シャープネス］をタッチする

「シャープネス」画面が表示されます。



4 シャープネスの度合いをタッチして選ぶ

- （ソフト）、（標準）、（ハード）の3種類から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

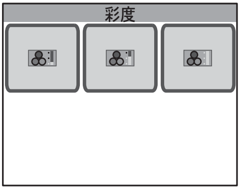
5 MENUボタンを2回押す

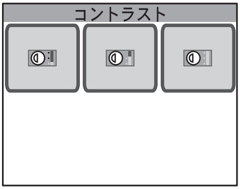
- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

［彩度］または［コントラスト］を設定するには

手順3で［彩度］または［コントラスト］をタッチして設定します。

［彩度］は、（低）、（標準）、（高）の3種類から、［コントラスト］は、（低）、（標準）、（高）の3種類から選択できます。





ピントを合わせる

このカメラは、何も設定しなくても、シャッターボタンを半押ししたときに、自動的にピントを合わせてくれます。しかし、思い通りの位置にピントをすばやく合わせるために、ピント合わせの方法を自分で設定することが必要なときもあります。ここでは、さまざまなピント合わせのための設定について説明します。

ピントを合わせる範囲を選ぶ

初期状態では、約40cm～無限遠の範囲の被写体に自動的にピントを合わせるようになっています。[フォーカスリミット](p.66)を「オフ」にすると、約15cm～無限遠の範囲の被写体にピントを合わせることができるようになります。
また、近くのものや遠くのものにすばやくピントを合わせたいとき、画面全体にピントを合わせたいとき、手動でピントを合わせたいときは、[フォーカスモード]を設定します(p.63)。

ピントを合わせる位置を選ぶ

初期状態では、画面中央のフォーカスフレーム内で一番近いものにピントを合わせます。ピントを合わせる位置を固定したいときは、[AFエリア]を設定します(p.65)。

ピントが合いにくいときは

被写体が下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。こんなときは、いったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定(シャッターボタン半押し)し、その後、構図を撮りたい位置に戻してシャッターを切ります。

- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい場合)

暗いところでもピントを合いやすくする

暗いところでもピントが合いやすいように、初期状態で［AF補助光］を使用する設定になっています（p.66）。

手ぶれや被写体ぶれを防ぐには

手ぶれや被写体ぶれを防ぐには、シャッター速度を早くする必要があります。そのためには、感度を上げる（p.67）、ストロボを使う（p.56）などの方法があります。
また、手ぶれしやすいときは、画面に（手ぶれ警告）が表示されます。手ぶれを防ぐには、三脚、リモコン（p.70）、セルフタイマー（p.69）の使用が有効です。

ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えるには

近い距離から被写体をズームで拡大して撮影すると、ピントが合って見える範囲（被写界深度）を狭くし、被写体の背景をぼかすことができます（p.45）。

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

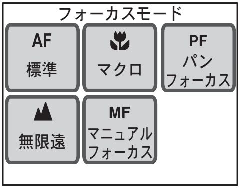
AF	標準	被写体までの距離が40cm 以上のときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷	マクロ	被写体までの距離が約15cm〜約40cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
PF	パンフォーカス	他の人に撮ってもらうときや、車や電車の窓越しに外の風景を撮るときなどに使用します。手前から奥までピントが合うようになります。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⊘（発光禁止）、フォーカス位置は無限遠に固定となります。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 AF（フォーカスモード）アイコンをタッチする

- **AF** の部分には、現在選択されている［フォーカスモード］のアイコンが表示されます。
- 「フォーカスモード」画面が表示されます。



3 設定するフォーカスモードをタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

注意

［フォーカスモード］が🌷（マクロ）に設定されているときは、光学ズームは使用できません（デジタルズームは使用できます）。

メモ

- ［フォーカスモード］が **AF**（標準）でピントが合わなかったときは、以下のようになります。
  - ストロボが発光するか、［ホワイトバランス］が［蛍光灯］または［白熱灯］のとき：2mの距離にピントが合います。
  - その他の場合：パンフォーカスとなります。
- ［フォーカスモード］が🌷（マクロ）でピントが合わなかったときは、撮影できません。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1 **「フォーカスモード」画面で［マニュアルフォーカス］をタッチする**

液晶モニターにMF枠が表示されます

2 **MF枠内をタッチする**

MF枠内が画面いっぱいに拡大して表示されます。

MFバー

3 **矢印アイコン（≪≫）をタッチしてピントを合わせる**

画面にMFバーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にピントを合わせます。

≪：近くにピントが合う

≫：遠くにピントが合う

4 **シャッターボタンを半押しする**

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

矢印アイコン（≪≫）から手を離して5秒以上経過すると、撮影できる状態に戻ります。

オートフォーカス条件を設定する

ピントを合わせる位置を選ぶ（AFエリア）

[ ]	マルチ	フォーカスフレーム内の一番近いものにピントを合わせます。
[]	スポット	画面中央にピントを合わせます。

1 MENUボタンを押す

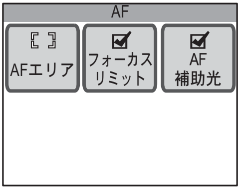
［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

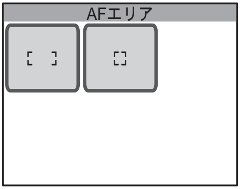
3 AFをタッチする

「AF」画面が表示されます。



4 ［AFエリア］をタッチする

「AFエリア」画面が表示されます。



5 設定するAFエリアをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 MENUボタンを3回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

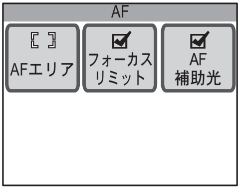
撮影モードが（動画）のときは、[]（スポット）に固定され、変更できません。

ピント合わせの範囲を制限する（フォーカスリミット）

☑	オン	無限遠から約40cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。
□	オフ	ズームを使用していない場合は、無限遠から約15cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。ズームを使用している場合は、無限遠から約40cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。

1 「AF」画面で［フォーカスリミット］をタッチする

☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。



2 MENUボタンを3回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

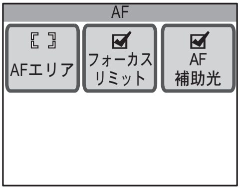
撮影モードが✿（花）のとき、［フォーカスリミット］は「オフ」に設定されますが、変更は可能です。

暗いときにもピントを合いやすくする（AF補助光）

☑	オン	被写体が暗く、オートフォーカスが正確に作動しないときに、被写体にAF補助光（緑の光）が照射され、ピントが合いやすくなります。
□	オフ	暗いところでも、AF補助光が照射されません。

1 「AF」画面で［AF補助光］をタッチする

☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。



2 MENUボタンを3回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

注意

本製品のAF補助光は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1に適合しています。AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことはしないでください。

メモ

撮影モードが🎥（動画）のときと、［フォーカスモード］が**PF**（パンフォーカス）、▲（無限遠）、**MF**（マニュアルフォーカス）のとき、AF補助光は発光しません。

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて設定します。

オート	80、160、320から最適な値が自動的に選択されます。
80	感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所では、シャッター速度が遅くなります。 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッター速度を速くできます。画像にはノイズが増えます。
160	
320	
400	

1 MENUボタンを押す

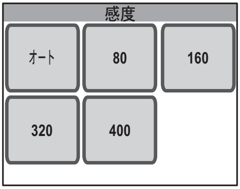
［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［感度］をタッチする

「感度」画面が表示されます。



4 設定する感度をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

撮影モードが（動画）のときは、［感度］は［オート］に固定され、変更できません。

撮影する

シャッターボタンを全押しする代わりに、セルフタイマー（p.69）やリモコン（p.70）を使ってシャッターを切ることもできます。
また、シャッターを切ったときに、連続して撮影する（p.72）こともできます。

撮影された画像は、液晶モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、保存されます。［クイックビュー］の時間は、変更できます（p.73）。

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを押してから、10秒または2秒後に撮影されます。
セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

⏲	撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用します。シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。
⏲2s	手ぶれを避けるために利用します。シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。

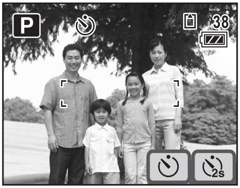
1 **撮影モードで液晶モニターをタッチする**

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 **□（ドライブモード）アイコンをタッチする**

- □の部分には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 **⏲（セルフタイマーモード）アイコンをタッチする**



- ⏲ の部分には、現在選択中の［セルフタイマーモード］のアイコンが表示されます。
- 液晶モニターに ⏲ と ⏲2s アイコンが表示されます。
- セルフタイマーモードを変更したい場合は、⏲または⏲2sをタッチします。

4 **シャッターボタンを半押しする**

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

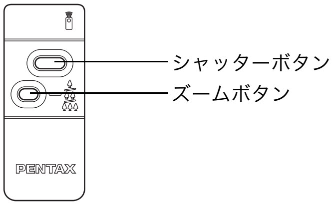
5 **シャッターボタンを全押しする**

撮影までの時間が液晶モニターにカウントダウン表示され、10秒後または2秒後に撮影されます。

メモ

カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止します。全押しすると、カウントダウンをやり直します。

リモコンを使って撮影する



リモートコントロールE
（リモートコントロールFには、ズームボタンがありません。）

シャッターボタンを全押しする代わりに、リモートコントロールEまたはF（別売）を使って撮影できます。

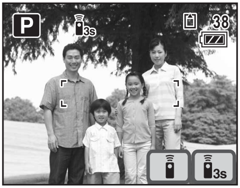
1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 □（ドライブモード）アイコンをタッチする

- □の部分には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 3s（リモコン）アイコンをタッチする



- 3sの部分には、現在選択中のリモコンモードが表示されます。
- 液晶モニターに ▯ と 3s アイコンが表示されます。
- リモコンモードを変更したい場合は、▯ または3sをタッチします。
- リモコンモードでは、セルフタイマーランプが点滅します。

4 リモコンのシャッターボタンを押す

3s：セルフタイマーランプが速く点滅し、約3秒後に撮影されます。

▯：すぐに撮影されます。

メモ

動画撮影モードで撮影を中止するには、リモコンまたはカメラのシャッターボタンを押します。

リモコンを使ってズーム倍率を変更する

リモートコントロールE（別売）では、シャッターボタンによる撮影のほか、ズームボタンを使ってズーム倍率を変えることもできます。

1　リモコンモードでリモコンのズームボタンを押す

押すたびにズーム位置が切り替わります。

注意

- [フォーカスモード]が🌷（マクロ）のときは、ズームボタンを押してもズーム位置は変わりません。
- リモコンを使ってズーム倍率を変更できるのは、光学ズーム域のみです。デジタルズーム域は使えません。

メモ

- 本体のボタンは、通常と同じように操作できます。
- リモコンの届く距離は、カメラ正面から約4mです。
- 新品のリモコン用電池を使うと、リモコンからカメラへ信号を約30,000回送信することができます。

連続して撮影する

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 □（ドライブモード）アイコンをタッチする

- □の部分には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 ⧉アイコンをタッチする

設定が保存され、撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押しつづけている間、連続して写真が撮影されます。

注意

連続撮影では、ストロボは発光しません。

メモ

- 連続撮影の間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。
- ピント、露出は、1枚目で固定されます。

撮影直後の画像表示の時間を設定する（クイックビュー）

クイックビュー（撮影直後の画像表示）の時間を［オフ］（表示しない）［1秒］［2秒］［3秒］［4秒］［5秒］から選択します。

1　MENUボタンを押す

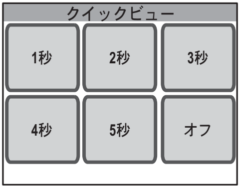
［メニュー］が表示されます。

2　［撮影2］をタッチする

「撮影2」画面が表示されます。

3　［クイックビュー］をタッチする

「クイックビュー」画面が表示されます。



4　設定する表示時間をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

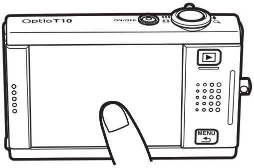
5　MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

再生と加工

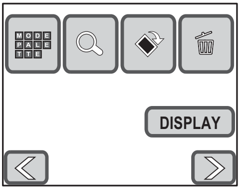
再生のための機能を設定する

▶ボタンを押して撮影モードから再生モードに切り替えます。再生モードでは、［再生ツールバー］を使って再生のための機能を設定します。



液晶モニターをタッチ

［再生ツールバー］



選択するアイコンをタッチ

［再生モードパレット］

選択するアイコンをタッチ

画面に従い、操作を続けます。

- ［再生モードパレット］でアイコンをタッチすると、ガイド画面が表示されます。ガイド画面の表示を省略したいときは、ダブルタッチします。
- ▶ボタンを押すか、一定時間以上、何も操作をしないと、再生画面に戻ります。
- シャッターボタンを押すと（全押しまたは半押し）、撮影画面に切り替わります。
- **MENU**ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

[再生ツールバー] で設定する機能

項目		内容	初期状態	参照
	再生モードパレット	再生モードパレットを表示します。	―	―
	画像拡大	撮影した写真を拡大表示します。	―	p.79
	画像回転	撮影した写真を回転表示します。	―	p.78
	画像消去	不要な画像を消去します。	―	p.88
DISPLAY	情報表示	液晶モニターにどんな情報を表示するかを設定します。	標準	p.76

[再生モードパレット] でできること

項目			内容	初期状態	参照
	スライドショウ		撮影した写真や動画を連続して再生します。	3秒、ワイプ、オン	p.84
	リサイズ		写真の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	―	p.93
	トリミング		写真の不要な部分を削除して、別の写真として保存します。	―	p.94
	画像/音声コピー		内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声をコピーします。	―	p.108
	デジタルエフェクト	カラーフィルタ	写真を白黒やセピア、赤、青、緑などのカラーフィルタを使って加工します。	白黒	p.101
		デジタルフィルタ	写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、人物の横幅を変えたりします。	ソフト	p.103
		明るさフィルタ	写真の明るさを変更します。	0	p.102
		フレーム合成	写真に飾り枠を合成します。	―	p.99
		お絵かきモード	写真に絵を描いたり、スタンプを押したり、切り取ってスタンプにしたり、一部を消したりします。	―	p.95
	動画編集（静止画保存）		動画の1コマを静止画として保存します。	―	p.107

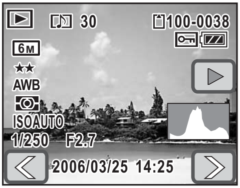
項目		内容	初期状態	参照
	赤目補正	ストロボ撮影で人物の目が赤く写った写真を補正します。	―	p.104
	ボイスメモ	撮影した写真に音声（ボイスメモ）を付けます。	―	p.105
	プロテクト	画像や音声を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。	―	p.91
DPOF	DPOF	撮影した写真のプリントを予約します。	―	p.110
	起動画面設定	気に入った写真を起動時に表示します。	―	p.106

撮影情報を表示させる

再生時の液晶モニターの表示内容は、以下の3通りから選択できます。表示内容の詳細は、表紙裏の「画面の表示」をご覧ください。

［標準］

［標準+ヒストグラム］



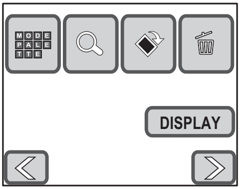
［情報表示なし］

メモ

- ヒストグラムの形状で、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認できます（p.54）。
- 動画ファイルの場合、ヒストグラムは表示されません。

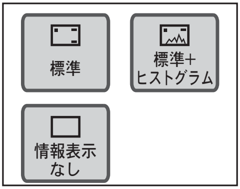
1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。



2 ［DISPLAY］をタッチする

表示内容の選択画面が表示されます。



3 表示内容をタッチする

設定が保存され、再生できる状態になります。

再生する

再生専用モードで起動する

再生専用モードは、撮影はせずに、すぐに画像や音声を再生したいときに使用します。

1　電源オフの状態で▶ボタンを押しながら電源スイッチを押す

再生専用モードで起動します。レンズは収納されたまま、繰り出されません。

メモ

- 撮影モードで▶ボタンを2 秒以上押すと、再生専用モードに切り替わり、レンズが収納されます。
- ▶ボタンを押して2秒以内に離したときは、レンズが出たままの通常の再生モードになります。再生モードに移行後、10秒経過するか、再生モードパレットの項目選択を行うと、レンズは保護のため収納されます。
- 再生専用モードで▶ボタンを押すと撮影モードに切り替わり、レンズが繰り出されます。

回転表示する

1　再生モードで矢印アイコン（《 》）をタッチして回転させる写真を選ぶ

2　液晶モニターをタッチする

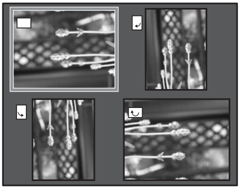
［再生ツールバー］が表示されます。

3　◇アイコンをタッチする

回転方向を選択する画面が表示されます。

4　回転する方向をタッチする

回転した状態で写真が表示されます。



注意

- 動画は回転表示できません。
- プロテクトされた写真（p.91）やSDメモリーカードをライトプロテクトしているとき（p.19）は、回転表示できません。

拡大表示する

写真を再生する際、最大12倍まで拡大表示できます。拡大表示中は、ドラッグして表示位置を変更できます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして拡大表示する写真を選ぶ

2 ズームレバーをQ側に回す

写真が拡大表示されます（1倍～12倍）。
- 液晶モニターの ⊕ アイコンをタッチして拡大することもできます。
- ズームレバーを Q 側に回し続けるか、⊕ アイコンを押し続けると、連続的に大きさが変わります。
- 写真のどの部分を拡大しているかを画面左上のガイド表示で確認できます。

拡大表示中にできる操作

＜拡大位置の移動＞
- 画面左上のガイド表示で、表示範囲をドラッグして移動
- 表示画面で表示したい部分へ向けてドラッグ

＜拡大率の変更＞
- ズームレバー（Q）／⊕アイコン：写真を拡大する（最大12倍まで）
- ズームレバー（▦）／⊖アイコン：写真を縮小する（最小1倍まで）
- 表示画面で表示したい範囲をドラッグ（1倍表示時のみ）：ドラッグした範囲を拡大表示
- 1倍表示時に⊕アイコンをダブルタッチすると、最大倍率に拡大されます。
- 最大倍率時に⊖アイコンをダブルタッチすると、1倍表示に縮小されます。

3 MENUボタンを押す

1画面表示に戻ります。

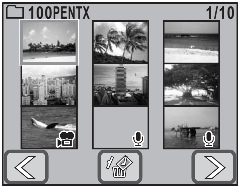
注意

- 動画は拡大表示できません。
- 液晶モニターの表示モードが［情報表示なし］になっている場合は、拡大部分を確認するためのガイドは表示されません（p.76）。ただし、⊖⊕アイコンは表示されます。

9画面表示をする

撮影した画像や音声を液晶モニターに同時に9ファイルずつ表示します。

1 再生モードでズームレバーを ▦ 側に回す



- 9画面表示になります。
  ファイルの上に表示される記号の意味は下記の通りです。
  無印　　　　　：音声なしの写真
  🎙（画像あり）：音声付きの写真
  🎥　　　　　　：動画（1コマ目の画面が表示されます）
  🎙（画像なし）：音声のみのファイル
- 矢印アイコン（《》）をタッチすると9画面単位でページが切り替わります。
- 🗑アイコンをタッチすると、選択消去画面に切り替わります（p.90）。

2 ファイルをタッチする

タッチしたファイルの1画面表示に切り替わります。

4
再生と加工

ボイスメモが付いた写真を再生する

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチしてボイスメモが付いた写真（p.105）を選ぶ

ボイスメモが付いている写真には、🎵アイコンが表示されます。

2 ▶アイコンをタッチする

ボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

ズームレバー（♠）	：音量を大きくする
ズームレバー（♠♠♠）	：音量を小さくする
◻アイコン、**MENU**ボタン	：再生を途中で停止します。

動画を再生する

🎥（動画）モードで撮影した動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1　再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして再生する動画を選ぶ

2　▶アイコンをタッチする

動画が再生されます。

再生中にできる操作

⏸	：一時停止
□、**MENU**ボタン	：再生を途中で停止する
◀	：逆方向に再生
▶	：逆方向再生中に順方向再生に戻る
ズームレバー（🔍）	：音量を大きくする
ズームレバー（▦）	：音量を小さくする

一時停止中にできる操作

▶	：一時停止を解除（再生）
□	：再生を停止する
◁⏸	：コマ戻しする
⏸▷	：コマ送りする

3　□アイコンをタッチする

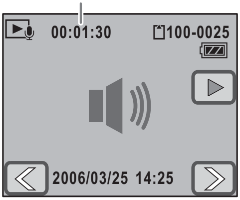
再生が停止します。

音声を再生する

🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声を再生します。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして再生する音声を選ぶ

ファイルの総録音時間



2 ▶アイコンをタッチする

音声が再生されます。

再生済み時間

再生中にできる操作

⏸	：一時停止
□、**MENU**ボタン	：再生を停止する
ズームレバー（🔍）	：音量を大きくする
ズームレバー（▦）	：音量を小さくする

<インデックスがない場合>

⏪	：早戻しする
⏩	：早送りする

<インデックスがある場合>

⏪	：前のインデックス位置から再生
⏩	：次のインデックス位置から再生

一時停止中にできる操作

▶	：一時停止を解除（再生）
□	：再生を停止する
◁ǁ	：約5秒前に戻る
ǁ▷	：約5秒先に送る

メモ

- インデックスがある音声の場合は、インデックス位置まで早戻し、早送りされます。
- ◁ǁǁ▷アイコンを長押し（5秒経過）すると、約20秒ごとに早戻し、早送りされます。
- 画面下部のバーをタッチして、早送りや早戻しの位置を指定することもできます。

スライドショウで連続再生する

撮影した写真や動画を連続して再生します。

1 **再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチしてスライドショウを開始する画像を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

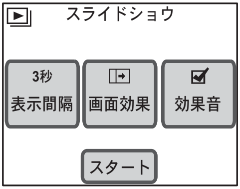
［再生ツールバー］が表示されます。

3 **MODE PALETTE アイコンをタッチする**

［再生モードパレット］が表示されます。

4 **▶アイコンをダブルタッチする**

- 「スライドショウ」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。



5 **［スタート］をタッチする**

スライドショウがスタートします。

スライドショウの途中で液晶モニターをタッチすると、一時停止します。一時停止中に［スタート］をタッチすると再開します。

6 **シャッターボタン、▶ボタン、MENUボタンを押すか、ズームレバーを動かす**

スライドショウが終了します。

メモ

- スライドショウは、終了するまで繰り返します。
- 動画やボイスメモ付きの写真は、「表示間隔」の設定時間にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。
- 🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声は、スライドショウでは再生されません。

［表示間隔］を設定する

「スライドショウ」画面で［表示間隔］をタッチして設定します。［表示間隔］は［3秒］［5秒］［10秒］［20秒］［30秒］から選べます。
設定したい秒数のアイコンをタッチすると、設定が保存され、「スライドショウ」画面に戻ります。

［画面効果］を設定する

「スライドショウ」画面で［画面効果］をタッチして設定します。「画面効果」は、以下から選択できます。

◫	ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
▤	フェード	現在の画面が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
⊞	シュリンク	画像が一点に集中し、切り替わる効果
オフ	オフ	切り替え効果なし

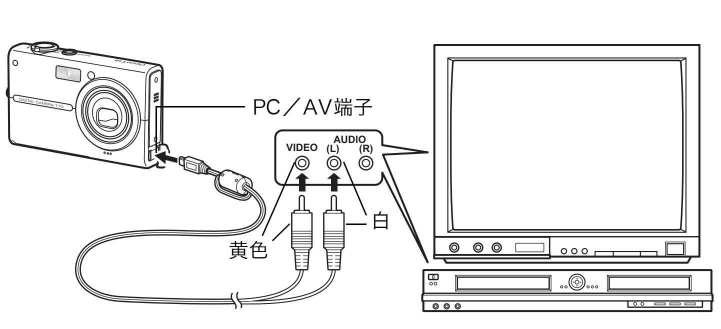
設定したい画面効果のアイコンをタッチすると、設定が保存され、「スライドショウ」画面に戻ります。

［効果音］を設定する

「スライドショウ」画面で［効果音］をタッチして設定します。
「画面効果」が「オフ」以外のときに、画面が切り替わるときに流れる効果音の☑（オン）／□（オフ）を切り替えることができます。

テレビで再生する

AVケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えたAV機器を液晶モニターの代わりに使って再生ができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。



1 カメラのPC／AV端子にAVケーブルを接続する

2 AVケーブルのもう一方の端子（映像：黄色、音声：白）を、AV機器の映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の出力に対応する機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

3 AV機器の電源をオンにする

カメラを接続した機器と、画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源をオンにします。

4 カメラの電源をオンにする

- ビデオ出力専用モードで起動します。
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。

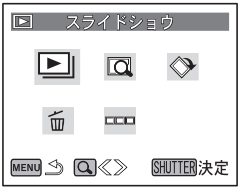
5 テレビ画面に表示されるガイドに従って操作する

- ズームレバー、シャッターボタン、▶ボタン、**MENU** ボタンを使って操作します。

ズームレバー　　　：アイコンの選択、ページ送りなどに使います。
シャッターボタン：選択の確定、表示内容の切り替えなどに使います。
▶ボタン　　　　：動画や音声の再生などに使います。
MENUボタン　　：ビデオ出力専用メニューを表示する、前の画面に戻るときなどに使います。

- **MENU**ボタンを押すと、ビデオ出力専用メニューが表示されます。

▶：スライドショウをします。
🔍：写真を拡大します。
◇：写真を回転します。
🗑：画像や音声を消去します。
□□□：ファイル一覧から表示する画像や音声を選択します。



6 カメラの電源をオフにする

7 カメラとAV機器からAVケーブルを取り外す

メモ

- 長時間使用するときは、AC アダプターキット「K-AC7J」（別売）の使用をおすすめします。
- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期状態（[NTSC]）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を[PAL]に切り替えてください（p.131）。
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。
- AV機器に接続している間は、カメラのズームレバーを使っての音量調整はできません。
- 別売のリモコン（p.70）を使うと次のような操作が可能です。

リモートコントロール E：シャッターボタンで次の画像を表示、ズームボタンで前の画像を表示します。
リモートコントロール F：シャッターボタンで次の画像を表示します。

消去する

一つずつ消去する

画像や音声を一つ一つ確認しながら消去します。

注意

- プロテクトされている画像や音声は消去できません（p.91）。
- SDメモリーカードがロックされている場合（ライトプロテクトスイッチがLOCKになっている場合）は、画像や音声は消去できません。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして消去する画像または音声を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 🗑アイコンをタッチする

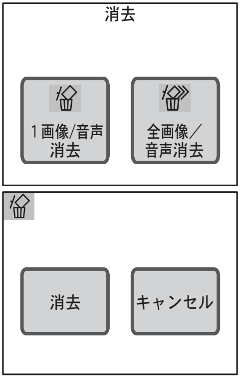
「消去」画面が表示されます。

4 ［1画像/音声消去］をタッチする

消去を確認する画面が表示されます。

5 ［消去］をタッチする

選択した画像や音声が消去されます。

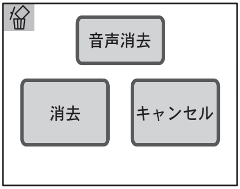


メモ

撮影直後に画像が表示されている間に🗑アイコンをタッチすると、撮影したばかりの画像を消去できます。

ボイスメモを消去する

ボイスメモ付きの写真（p.105）の場合は、手順5で［音声消去］をタッチするとボイスメモだけを消去できます。
写真とボイスメモの両方を消去するには、手順5で［消去］をタッチします。



まとめて消去する

カメラに保存されているすべての画像や音声をまとめて消去します。

注意

プロテクトされている画像や音声は消去できません（p.91）。

1　再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2　アイコンをタッチする

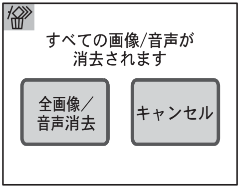
「消去」画面が表示されます。

3　［全画像/音声消去］をタッチする

消去を確認する画面が表示されます。

4　［全画像/音声消去］をタッチする

すべての画像と音声が消去されます。



選択して消去する

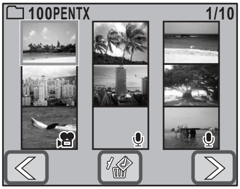
9画面表示で確かめながら、消去する画像や音声ファイルを選び、一括して消去します。

注意

プロテクトされているファイルは消去できません（p.91）。

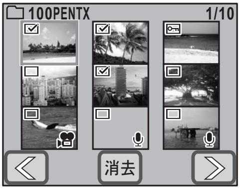
1 再生モードでズームレバーを ⊞ 側に回す

9画面表示に切り替わります。



2 アイコンをタッチする

ファイルの上に□（チェックボックス）が表示されます。



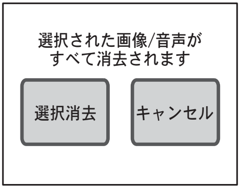
3 消去するファイルをタッチする

- ファイルが選択され、□が☑に変わります。
- ズームレバーをQ側に回すと、ファイルが1画面表示されます（2秒経つか、ズームレバーを⊞側に回すと9画面表示に戻ります）。

  1画面表示でも、チェックボックスをタッチして☑（オン）／□（オフ）をひとつひとつ切り替えることができます。

4 ［消去］をタッチする

消去を確認する画面が表示されます。



5 ［選択消去］をタッチする

選択したファイルが消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

画像や音声を誤って消去しないように、プロテクトすることができます。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

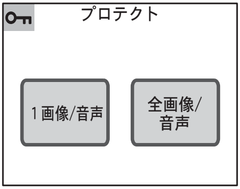
［再生ツールバー］が表示されます。

2 アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

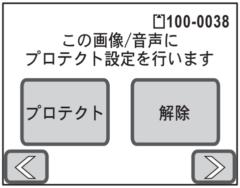
3 アイコンをダブルタッチする

- 「プロテクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。



4 「1画像/音声」をタッチする

プロテクトする画像または音声を選択する画面が表示されます。



5 矢印アイコン（ ）をタッチしてプロテクトする画像または音声を選ぶ

6 ［プロテクト］をタッチする

選択した画像または音声がプロテクトされます。

注意

SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットすると、プロテクトされている画像や音声も消去されます。

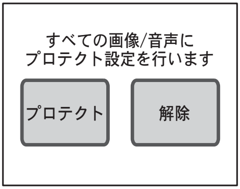
メモ

- プロテクトを解除するには、手順6で［解除］をタッチします。
- プロテクトされている画像や音声には、再生時にファイル番号の下に が表示されます。

すべての画像と音声をプロテクトするには

1 「プロテクト」画面で［全画像/音声］をタッチする

プロテクトを確認する画面が表示されます。



2 ［プロテクト］をタッチする

すべての画像と音声がプロテクトされます。

メモ

手順2で［解除］を選択すると、すべての画像と音声のプロテクトが解除されます。

加工する

写真のサイズと画質を変更する（リサイズ）

写真の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくできます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったときは、写真をリサイズして上書き保存すれば、空き容量が増え、続けて撮影できます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、リサイズする写真を選ぶ

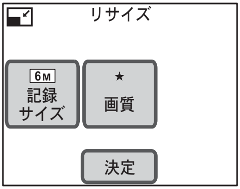
2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 アイコンをダブルタッチする



- 「リサイズ」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。
- 初期状態では、［記録サイズ］は同じで［画質］を1段階下げた設定が表示されます。設定を変更したいときは、［記録サイズ］または［画質］をタッチして設定します。

5 ［決定］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

6 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- リサイズされた写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画や音声ファイルはリサイズできません。
- 元の写真よりも大きいサイズ、きれいな画質には変更できません。
- ボイスメモの付いた写真をリサイズして新規保存した場合は、ボイスメモも一緒に新規保存されます。

写真から不要な部分を削除する（トリミング）

写真から不要な部分を削除して、別の写真として保存できます。

1　再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、トリミングする写真を選ぶ

2　液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3　アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4　アイコンをダブルタッチする

- 「トリミング」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5　トリミング枠の大きさと範囲を設定する

- 初期状態では、最大の枠サイズとなっています。
- トリミング枠の大きさは、ズームレバーを使うか、［サイズ変更］をタッチして変更します。
- トリミング枠は、ドラッグして移動できます。

6　［決定］をタッチする

トリミングされた写真が新しいファイル名で保存されます。

注意

動画はトリミングできません。

メモ

- トリミング後の写真は、元の写真と同じ［画質］で保存されます。
- ボイスメモの付いた写真をトリミングして新規保存した場合は、ボイスメモも一緒に新規保存されます。

写真に絵を描く／スタンプを押す

撮影した写真に絵を描いたり、スタンプを押したりできます。撮影した写真からマイスタンプを作ることでもできます。

1　再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、加工する写真を選ぶ

2　液晶モニターをタッチする

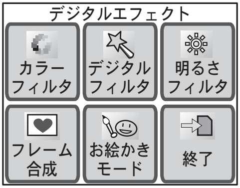
［再生ツールバー］が表示されます。

3　アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

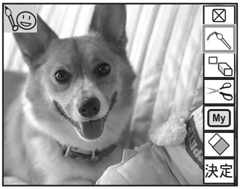
4　アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

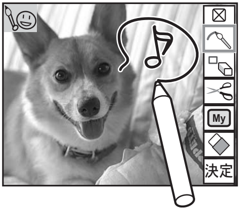


5　［お絵かきモード］をタッチする

お絵かき画面が表示されます。



6 画面右にあるお絵かきツールを使って絵を描いたり、スタンプを押したりする



お絵かきツールのアイコンをタッチして各機能を選択します。

- ：ツールバーを閉じます。
- ：線の色、にじみ、種類を選択します。
- ：12種類のスタンプから選択します。
- ：写真の一部を切り取り、マイスタンプにします。
- My：マイスタンプから選択します（4つまで登録できます）。
- ：描いた絵やスタンプを消します。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

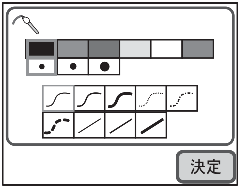
9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 加工された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画や 640 のサイズの写真には、お絵かきができません。
- 3M 以上のサイズの写真は、お絵かきをすると 2M にリサイズされます。

絵を描く線を選ぶには



手順6で アイコンをタッチすると、線選択画面が表示されます。
線の色（黒、赤、青、黄、白、ピンク）、にじみ、種類をタッチして選択し、［決定］をタッチします。

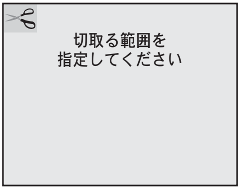
用意されたスタンプを使うには

手順6で アイコンをタッチすると、スタンプ選択画面が表示されます。
使用するスタンプを12種類の中からタッチして選択し、［決定］をタッチします。

マイスタンプを作る

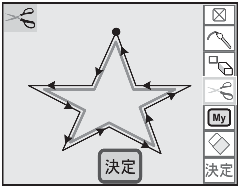
1 ✂アイコンをタッチする

画像切り取り画面が表示されます。



2 ドラッグして切り取る範囲を選択する

- 切り取る範囲は、一筆書きで選択します。
- 切り取る範囲を変更したいときは、**MENU**ボタンを押して、最初から範囲を選択し直してください。

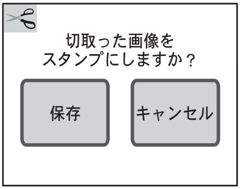


3 ［決定］をタッチする

スタンプにするか確認する画面が表示されます。

4 ［保存］をタッチする

マイスタンプが作成されます。



メモ

マイスタンプは、4つまで登録できます。

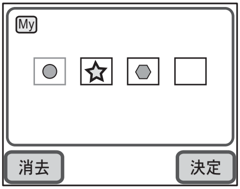
マイスタンプを使う

1 **[My]アイコンをタッチする**

マイスタンプ選択画面が表示されます。

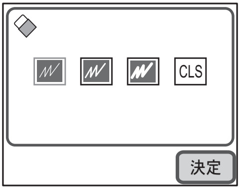
2 **使用するスタンプをタッチして選択する**

- 写真にスタンプが押されます。
- スタンプを削除するときは、[消去] をタッチします。



消しゴムを使う

◆アイコンをタッチすると、消しゴム選択画面が表示されます。
使用する消しゴムの種類をタッチして選択し、[決定] をタッチします。



メモ

[CLS] は全消去です。お絵かきモードでの変更がすべてクリアされます（登録したスタンプは消えません）。

写真にフレームを付ける（フレーム合成）

撮影した写真にフレーム（飾り枠）を付けることができます。このカメラには7種類のフレームが用意されています。

1 **再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、フレームを付ける写真を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

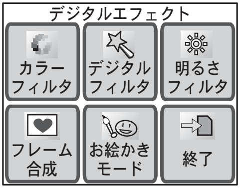
[再生ツールバー] が表示されます。

3 **MODE PALETTE アイコンをタッチする**

[再生モードパレット] が表示されます。

4 **アイコンをダブルタッチする**

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。



5 **[フレーム合成] をタッチする**

フレームの選択画面が表示されます。

6 **矢印アイコン（≪≫）をタッチして、合成するフレームを選ぶ**

7 **[決定] をタッチする**

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 **[終了] をタッチする**

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 **[上書き保存] または [新規保存] をタッチする**

- フレーム合成された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画や 2M 以下のサイズの写真には、フレームを付けられません。
- 4M 以上の写真は、フレームを付けると 3M にリサイズされます。

新しく入手したフレームを登録する

手順6で［変更］をタッチすると、フレーム登録画面に切り替わり、ホームページなどから入手したフレームを新たに登録できます。入手したフレームは、あらかじめSDメモリーカードにコピーしておいてください。

注意

SDメモリーカード内のフレームを登録すると、内蔵メモリーに登録されているフレームと置き換わり、内蔵メモリー内のフレームは削除されます。

1 フレームを選択する画面で、置き換えたいフレームを選び、［変更］をタッチする

メッセージが表示された後、SDメモリーカード内のフレームが表示されます。

2 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、登録するフレームを選ぶ

3 ［決定］をタッチする

表示されているフレームの代わりに、選択したフレームが登録されます。

新しいフレームは、弊社ホームページの下記アドレスからダウンロードできます。
http://www.pentax.co.jp/japan/support/download/digital/frame_01.html

写真の色調を変える（カラーフィルタ）

［カラーフィルタ］を使って写真の色調を変えることができます。
選択できる［カラーフィルタ］は、白黒、セピア、カラー（8色）、白黒+赤、白黒+緑、白黒+青の13種類です。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、色調を変える写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 ［カラーフィルタ］をタッチする

色調を変える画面が表示されます。

6 使用するカラーフィルタをタッチする

選択したカラーフィルタの適用結果をプレビューできます。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- カラーフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

写真の明るさを変える（明るさフィルタ）

1 再生モードで矢印アイコン（⧀⧁）をタッチして、明るさを変える写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTE アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 ［明るさフィルタ］アイコンをタッチする

明るさを調整する画面が表示されます。

明るさバー

6 ⊟ または ⊞ アイコンをタッチして、明るさを調整する

- 調整結果をプレビューできます。
- 明るさバーをタッチして調整することもできます。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 明るさフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

写真をソフトに／イラスト風に／スリムにする

［デジタルフィルタ］を使うと、写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、被写体をやせた感じや太った感じにすることができます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、加工する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 アイコンをタッチする

デジタルフィルタを選択する画面が表示されます。

6 使用するデジタルフィルタをタッチする

選択したデジタルフィルタの適用結果をプレビューできます。

SOFT ：写真をソフトな感じにします。
　：写真をイラスト風にします。
　：写真に紗をかけたような感じにします。
　：被写体をやせた感じや太った感じにします。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- デジタルフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

人物の赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った写真を補正します。

1 **再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、赤目を補正する写真を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

［再生ツールバー］が表示されます。

3 **MODE PALETTEアイコンをタッチする**

［再生モードパレット］が表示されます。

4 **アイコンをダブルタッチする**

- 赤目補正が実行されます。赤目補正が成功した場合は、手順7に進み、写真を保存します。
  赤目補正が失敗した場合は、エラー画面で［決定］をタッチすると「赤目補正」画面が表示されます。その場合は、手順5に進み、赤目補正する部分を指定します。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 **補正する部分をタッチする**

［決定］をタッチするまで、続けて赤目の個所を選択できます。

6 **［決定］をタッチする**

保存方法を選択する画面が表示されます。

7 **［上書き保存］または［新規保存］をタッチする**

- 赤目を補正した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画やカメラ側で赤目画像と特定できなかった写真は、赤目補正できません。
- 複数個所を選択した場合、1 個所以上補正が成功するとファイルを保存します。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した写真のみです。

写真に音声を付ける（ボイスメモ）

撮影した写真に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

1 再生モードで矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、ボイスメモを付ける写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 アイコンをダブルタッチする

- ボイスメモの録音を開始します。ボイスメモは、最長60秒間まで録音できます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

録音時間

5 ⊡アイコンをタッチする

ボイスメモの録音が終了します。

注意

- すでにボイスメモが録音されている写真にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去してから、もう一度録音してください（p.89）。
- プロテクトされている画像にボイスメモを付けることはできません。

メモ

ボイスメモを消去する方法については、「ボイスメモを消去する」（p.89）をご覧ください。

お気に入りの写真を起動画面にする

SDメモリーカードに保存されている写真から気に入った写真を指定し、カメラの起動時に表示することができます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、起動時に表示させたい写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 OPTIOアイコンをダブルタッチする

- 設定画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 矢印アイコン（≪≫）をタッチして起動画面を切り替える

- 選択した写真、起動画面として登録済みの写真、カメラに最初から登録されている画像（3種類）、「オフ」から選択できます。
- 「オフ」を選択すると、起動画面が表示されなくなります。

6 ［決定］をタッチする

起動画面の設定が保存されます。

注意

起動画面として登録済みの写真は、元の写真を消去したり、SDメモリーカードや内蔵メモリーをフォーマットしても消去されません。しかし、カメラの設定内容をリセットすると消去されます（p.136）。

動画の1コマを静止画として保存する

1 再生モードで矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして、静止画を切り出す動画を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

4 ✂アイコンをダブルタッチする

- 「動画編集」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

5 ◁‖‖▷アイコンをタッチして、静止画として保存するコマを選ぶ

- ▶アイコンを押すと動画が再生され、□アイコンを押すと再生を停止します。
- 再生中に‖アイコンをタッチすると一時停止します。

6 ［決定］をタッチする

選択したコマが静止画として保存されます。

画像や音声をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声をコピーします。

注意

- カメラに SD メモリーカードが入っていないと、この機能は使用できません。
- SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。
- 内蔵メモリーカードから SD メモリーカードへのコピーは、SD メモリーカードに十分な空き容量がないと実行できません。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに十分な空き容量があることを確認しておいてください。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

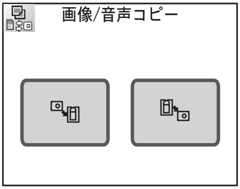
［再生ツールバー］が表示されます。

2 アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

3 アイコンをダブルタッチする

- コピー方法を選択する画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。



内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする

内蔵メモリー内のすべての画像と音声をSDメモリーカードにまとめてコピーします。

4 アイコンをタッチする

すべての画像と音声がコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

SDメモリーカード内の画像や音声を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

4 アイコンをタッチする

5 矢印アイコン（≪≫）をタッチしてコピーするファイルを選ぶ

6 ［決定］をタッチする

選択した画像または音声がコピーされます。

メモ

- 音声付きの写真は、音声付きのままコピーされます。
- プロテクトされている写真／動画／音声ファイルはコピー後もプロテクトされます。

プリント予約する（DPOF設定）

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した写真にプリントのための情報を記録するフォーマットです。撮影した写真にDPOF設定をすると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でプリントできます。

1枚ずつ設定する

1枚ずつ確認しながら、プリント枚数と日付プリントの有無を設定します。

1 再生モードで矢印アイコン（《》）をタッチして、プリント予約する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

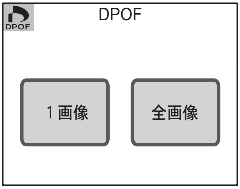
［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

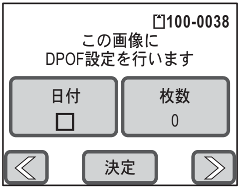
4 DPOFアイコンをダブルタッチする

- 「DPOF」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。



5 ［1画像］をタッチする

選択した写真にDPOF設定する画面が表示されます。



6 ［日付］をタッチする

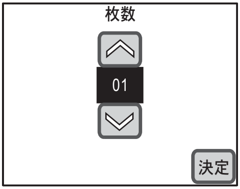
☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。

☑：プリントに日付を入れる

□：プリントに日付を入れない

7 ［枚数］をタッチする

「枚数」画面が表示されます。



8 矢印アイコン（∧∨）をタッチしてプリント枚数を設定する

99枚まで設定できます。

9 ［決定］をタッチする

手順5の画面に戻ります。

10 矢印アイコン（≪≫）をタッチして写真を選び、手順6～9を繰り返す

11 ［決定］をタッチする

DPOF設定が保存されます。

注意

プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOFの設定で［日付］を［オン］にしても日付がプリントされないことがあります。

メモ

- プリント枚数は、99枚まで設定できます。
- DPOF設定を解除するには、手順8で［枚数］を「00」に設定します。

まとめて設定する

カメラに保存されているすべての写真に、同じプリント枚数と日付の有無を設定します。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 アイコンをタッチする

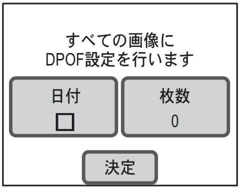
［再生モードパレット］が表示されます。

3 アイコンをダブルタッチする

- 「DPOF」画面が表示されます。
- タッチするとガイド画面が表示されます。

4 ［全画像］をタッチする

すべての写真にまとめてDPOF設定する画面が表示されます。



5 日付印刷の有無とプリント枚数を設定する

設定の方法は、「1枚ずつ設定する」の手順6〜9をご覧ください（p.111）。

6 ［決定］をタッチする

DPOF設定が保存されます。

注意

まとめて設定する場合、すべての写真に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定を確認してください。

メモ

まとめて設定すると、1枚ずつのDPOF設定は解除されます。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

付属のUSBケーブルでカメラをPictBridge対応のプリンターに接続すると、パソコンを使わなくても、カメラから直接写真をプリントできます。プリントする写真の選択やプリント枚数、日付プリントの有無は、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。

注意

- カメラをプリンターに接続するときは、別売のACアダプターキットのご使用をおすすめします。カメラがプリンターと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンターが誤動作したり、写真データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの機種によっては、カメラ側の設定（日付プリントの有無、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 1枚の用紙に複数の写真をプリントする設定は、カメラ側ではできません。プリンター側で設定するか、パソコンを使って印刷してください。

カメラをプリンターに接続する

1 カメラの［USB接続］モードを「PictBridge」に設定する

［USB接続］モードの設定方法は、「パソコンにつなぐかプリンターにつなぐか切り替える」（p.130）をご覧ください。

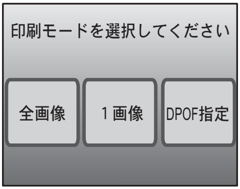
2 カメラの電源をオフにする

3 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続する

4 プリンターの電源をオンにする

5 プリンターの起動が完了したら、カメラの電源をオンにする

印刷モードを選択する画面が表示されます。



1枚ずつプリントする

1　印刷モードを選択する画面で[1画像]をタッチする

日付と枚数を設定する画面が表示されます。

2　［日付］をタッチする

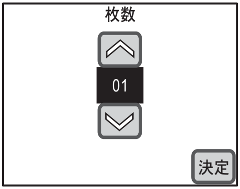
☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。

☑：プリントに日付を入れる

□：プリントに日付を入れない

3　［枚数］をタッチする

「枚数」画面が表示されます。

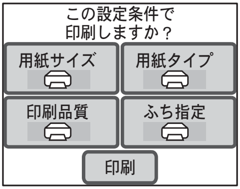


4　矢印アイコン（）をタッチしてプリント枚数を設定する

- 99枚まで設定できます。
- ［決定］をタッチすると、手順1の画面に戻ります。

5　［印刷］をタッチする

- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」（p.115）をご覧ください。



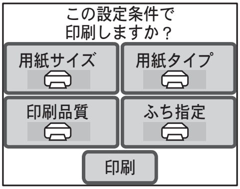
6　［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

印刷設定を変更するときは

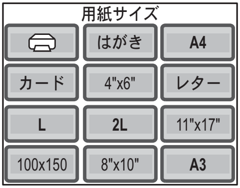
5 ［印刷］をタッチする

印刷設定を確認する画面が表示されます。



6 ［用紙サイズ］をタッチする

「用紙サイズ」画面が表示されます。



7 用紙サイズをタッチする

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。

8 手順6～7を繰り返して、［用紙タイプ］［印刷品質］［ふち指定］を設定する

- を選択するとプリンター側の設定に従います。
- ［用紙タイプ］は、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
- ［印刷品質］は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。

9 ［印刷］をタッチする

- 設定した条件でプリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

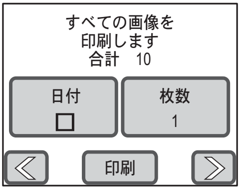
メモ

- カメラとプリンターを接続中は電源ランプが点灯し、プリントする写真データを転送中は電源ランプが点滅します。電源ランプが点滅中は、USBケーブルを取り外さないでください。
- 印刷設定（［用紙サイズ］、［用紙タイプ］、［印刷品質］、［ふち指定］）は、カメラの電源を切ると、初期状態に戻ります。

まとめてプリントする

1　印刷モードを選択する画面（p.113の手順5）で［全画像］をタッチする

日付と枚数を設定する画面が表示されます。



2　日付プリントの有無とプリント枚数を設定する

設定の方法は、「1枚ずつプリントする」の手順2～4をご覧ください（p.114）。

3　［印刷］をタッチする

- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」（p.115）をご覧ください。

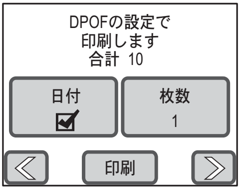
4　［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

DPOFの設定でプリントする

1　印刷モードを選択する画面（p.113の手順5）で［DPOF指定］をタッチする

- DPOF設定の内容が表示されます。
- ≪≫ をタッチすると、他の画像の DPOF 設定を確認できます。



2　［印刷］をタッチする

- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」（p.115）をご覧ください。

3　［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

USBケーブルを取り外す

プリントが終了したら、USBケーブルをカメラとプリンターから取り外します。

1 カメラの電源をオフにする

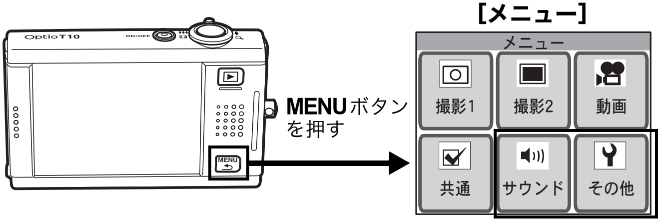
2 カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す

6 カメラを設定する

設定メニューを使う

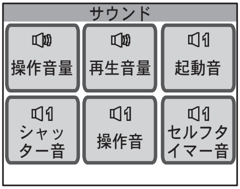
撮影モードまたは再生モード時に**MENU**ボタンを押すと、カメラの様々な機能を設定する［メニュー］が表示されます。ここでは、［サウンド］と［その他］の設定項目について説明します（［撮影1］［撮影2］［動画］［共通］については、p.34をご覧ください）。

［メニュー］

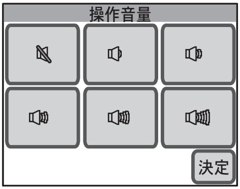


選択するアイコンをタッチ

- シャッターボタンを押すと、撮影画面に戻ります。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。
- **MENU**ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- 一定時間以上、何も操作をしないと、撮影画面または再生画面に戻ります。



選択するアイコンをタッチ



選択するアイコンをタッチ

画面に従い操作を続けます。

[サウンド] で設定すること

項目	内容	初期状態	参照
操作音量	操作時のアラート音など操作音の音量を設定します。	3	p.123
再生音量	動画や音声再生時の音量を設定します。	3	p.123
起動音	起動音の種類を設定します。	1	p.124
シャッター音	シャッター音の種類を設定します。	1	p.124
操作音	操作音の種類を設定します。	1	p.124
セルフタイマー音	セルフタイマーのカウントダウン音の種類を設定します。	1	p.124

[その他] で設定すること

項目	内容	初期状態	参照
フォーマット	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットします。	—	p.120
日時設定	日付、時刻、それぞれの表示スタイルを設定します。	初期設定による	p.121
ワールドタイム	世界時計を設定します。	オフ	p.125
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	初期設定による	p.128
フォルダ名	画像や音声を日付ごとに別フォルダに保存するようにできます。	標準	p.129
USB接続	USBケーブルの接続先を設定します。	PC	p.130
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	初期設定による	p.131
LCDの明るさ	液晶モニターの明るさを設定します。	4（標準）	p.132
エコモード	液晶モニターが暗くなるまでの時間を設定します。	5秒	p.133
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	3分	p.134
ガイド表示	ガイド画面を表示させるかどうかを設定します。	オン	p.135
リセット	日時、言語、ワールドタイム、ビデオ出力以外の設定内容を初期状態に戻します。	—	p.136

フォーマットする

内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されているすべてのデータを消去します。
SDメモリーカードがセットされている場合は、SDメモリーカードのデータが消去されます。SDメモリーカードがセットされていない場合は、内蔵メモリーのデータが消去されます。

注意

- SDメモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなることがあります。
- SDメモリーカードがライトプロテクトされている場合、そのカードはフォーマットできません（p.19）。
- フォーマットすると、プロテクトされた画像や音声、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。
- パソコンなど、このカメラ以外の機器でフォーマットしたSDメモリーカードは使用できません。SDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてください。
- フォーマットしたSDメモリーカードからでも、市販のデータ修復ソフトを使用してデータを取り出せることがあります。SDメモリーカードを廃棄するときは、カードを物理的に破壊することを、また、譲渡するときは、市販のデータ消去ソフトなどを使ってカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。カード内のデータは、お客様の責任において管理してください。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

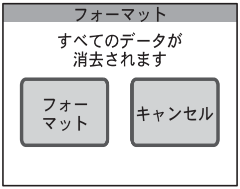
「その他」画面が表示されます。

3 ［フォーマット］をタッチする

「フォーマット」画面が表示されます。

4 ［フォーマット］をタッチする

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影できる状態になります。



日時を変更する

日付と時刻を変更します。また、カメラに表示される日付と時刻の表示スタイルを設定します。

[表示スタイル] を設定する

1　MENUボタンを押す

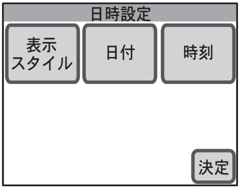
[メニュー] が表示されます。

2　[その他] をタッチする

「その他」画面が表示されます。

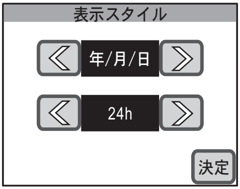
3　[日時設定] をタッチする

「日時設定」画面が表示されます。



4　[表示スタイル] をタッチする

「表示スタイル」画面が表示されます。



5　矢印アイコン（《》）をタッチして、年、月、日の表示順を選ぶ

[年/月/日] [日/月/年] [月/日/年] から選択できます。

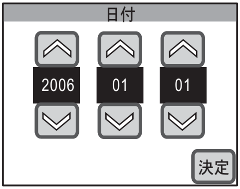
6　矢印アイコン（《》）をタッチして、時間表示を選ぶ

[24h]（24時間表示）または [12h]（12時間表示）から選択できます。

7　[決定] をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

[日付] を設定するには



1 「日時設定」画面で［日付］をタッチする

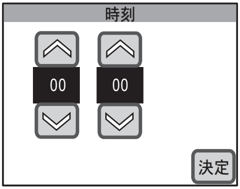
「日付」画面が表示されます。

2 矢印アイコン（　）をタッチして［日付］を設定する

3 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

[時刻] を設定するには



1 「日時設定」画面で［時刻］をタッチする

「時刻」画面が表示されます。

2 矢印アイコン（　）をタッチして［時刻］を設定する

3 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

メモ

時刻の設定終了後、［決定］をタッチすると、0秒にセットされます。時報に合わせて［決定］をタッチすると、秒単位まで正確な日時設定ができます。

サウンドの設定を変更する

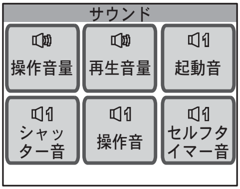
操作や再生するときの音量、起動音やシャッター音、操作音、セルフタイマー音の種類が変更できます。音を鳴らさないようにもできます。

1 **MENUボタンを押す**

［メニュー］が表示されます。

2 **［サウンド］をタッチする**

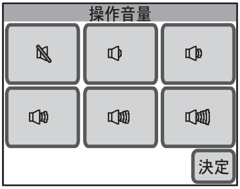
「サウンド」画面が表示されます。



［操作音量］／［再生音量］を変更する

1 **「サウンド」画面で［操作音量］をタッチする**

「操作音量」画面が表示されます。



2 **設定する操作音量のアイコンをタッチする**

（音量0）～（音量5）まで選択できます。（音量0）のときは、操作時に音が鳴りません。

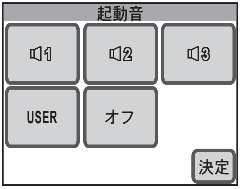
3 **［決定］をタッチする**

設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。

[起動音]／[シャッター音]／[操作音]／[セルフタイマー音]の種類を変更する

1 「サウンド」画面で設定するサウンドをタッチする

音の種類を選択する画面が表示されます。



2 設定する音の種類のアイコンをタッチする

- [1][2][3][USER][オフ]から選択できます。タッチすると選択した音が再生されます。[オフ]のときは、音が鳴りません。
- [USER]を選択すると、自分で録音した音声の先頭2秒間を割り当てることができます。

3 [決定]をタッチする

設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。

[USER]音を設定する

1 手順2で[USER]をタッチしてから[決定]をタッチする

カメラに[USER]音として設定できる音声ある場合、再生画面が表示されます。

2 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、音声を選ぶ

▶ ：先頭の2秒間を再生します。

□ ：再生を終了します。

3 [決定]をタッチする

- 設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。
- 選んだ音声の先頭の2秒間が、前項の手順1で選んだサウンドの[USER]音として設定されます。

世界時計を設定する（ワールドタイム）

「日時を設定する」（p.21）や「日時を変更する」（p.121）で設定した日時は、［現在地］の日時です。［ワールドタイム］を設定しておくと、海外で使用するとき、液晶モニターに［目的地］として設定した国や地域の日時を表示できます。

［目的地］を設定する

1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［その他］をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3　［ワールドタイム］をタッチする

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4　［目的地］をタッチする

「目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で緑色に点灯します。

5　地図の両側の矢印アイコン（《》）をタッチして、目的の都市が表示されている地図を選択する

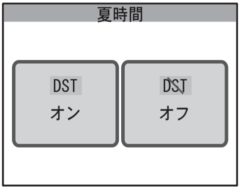
地図枠は、ドラッグして移動することもできます。

6 都市名の両側の矢印アイコン（≪≫）をタッチして、目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在の時刻が表示されます。

7 DSTアイコンをタッチする

「夏時間」画面が表示されます。



8 ［オン］または［オフ］をタッチする

［オン］: 夏時間を使用する
［オフ］: 夏時間を使用しない
設定が保存され、「目的地」画面に戻ります。

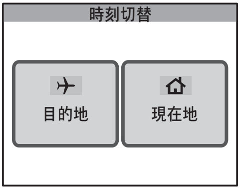
9 MENUボタンを押す

「ワールドタイム」画面に戻ります。

［目的地］の日時をカメラに表示させる

1 「ワールドタイム」画面で［時刻切替］をタッチする

「時刻切替」画面が表示されます。



2 ［目的地］をタッチする

設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

3 MENUボタンを3回押す

- 撮影できる状態になります。
「ワールドタイム」が設定されているときは、液晶モニターに✈アイコンが表示されます。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

p.125の手順4で［現在地］をタッチすると、現在地の都市や夏時間を設定できます。

ワールドタイムで指定できる都市名

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	リスボン
	マドリード
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	ベルリン
	ストックホルム
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ

地域	都市名
アフリカ・西アジア	エルサレム
	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどをカメラの液晶モニターに表示する言語を変更します。
日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、スウェーデン語、オランダ語、ロシア語、タイ語、韓国語、中国語（繁体字／簡体字）から選択することができます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3 ［Language/言語］をタッチする

「Language/言語」画面が表示されます。

4 設定する言語をタッチする

- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。
- 設定する言語が画面に表示されていないときは、矢印アイコン（≪≫）をタッチして、画面を切り替えます。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

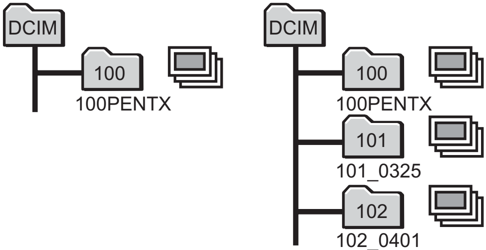
フォルダ名を変更する

撮影した画像や音声を保存するフォルダ名の付け方を設定します。「日付」に変更すると、撮影日ごとに違うフォルダに保存されるようになります。

フォルダ名の付け方

	標準	XXXPENTX（XXXは3桁のフォルダ番号） 500個のファイルまで同じフォルダに保存されます。ただし、最大ファイル番号は9999です。
	日付	XXX_mmdd（3桁のフォルダ番号_月日） 日付ごとに違うフォルダに保存されます。

標準で撮影　　　　　　　　［フォルダ名］を「日付」に変更



1 MENUボタンを押す

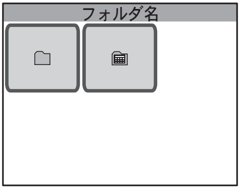
［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3 ［フォルダ名］をタッチする

「フォルダ名」画面が表示されます。



4 （標準）または（日付）アイコンをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

パソコンにつなぐかプリンターにつなぐか切り替える（USB接続）

USBケーブルの接続先（パソコンまたはPictBridge対応プリンター）に応じて、[USB接続]モードを切り替えます。

1 MENUボタンを押す

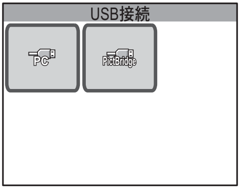
[メニュー] が表示されます。

2 [その他] をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3 [USB接続] をタッチする

「USB接続」画面が表示されます。



4 PC（PC）または PictBridge（PictBridge）アイコンをタッチする

PC：パソコンに画像や音声を転送する場合

PictBridge：PictBridge対応のプリンターに接続する場合

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

注意

[USB接続]で PC（PC）に設定した状態で、カメラをプリンターに接続しないでください。また、PictBridge（PictBridge）に設定した状態で、カメラをパソコンに接続しないでください。

メモ

パソコンとの接続方法については、別紙の「PC接続ガイド」をご覧ください。

ビデオ出力方式を選択する

AV機器と接続して撮影や再生するときのビデオ出力方式をNTSC方式とPAL方式から選択します。
国や地域によっては、ビデオ出力方式が、初期状態（[NTSC]）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を［PAL］に切り替えてください。

1 **MENUボタンを押す**

［メニュー］が表示されます。

2 **［その他］をタッチする**

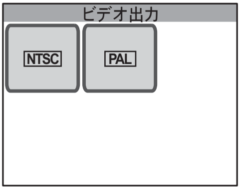
「その他」画面が表示されます。

3 **アイコンをタッチする**

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 **［ビデオ出力］をタッチする**

「ビデオ出力」画面が表示されます。



5 **[NTSC] または [PAL] をタッチする**

- 接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 **MENUボタンを2回押す**

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

液晶モニターの明るさを設定する

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3 ▽アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［LCDの明るさ］をタッチする

「LCDの明るさ」画面が表示されます。

5 ⊟または⊞アイコンをタッチして明るさを調整する

- ⊟アイコンをタッチすると暗く、⊞アイコンをタッチすると明るくなります。
- ドラッグして調整することもできます。

6 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

時間が経つと画面を暗くする（エコモード）

一定時間操作をしないと液晶モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。液晶モニターが暗くなったときは、いずれかのボタンを操作すると、元の明るさに戻ります。

1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［その他］をタッチする

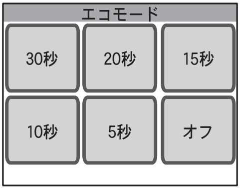
「その他」画面が表示されます。

3　アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4　［エコモード］をタッチする

「エコモード」画面が表示されます。



5　液晶モニターが暗くなるまでの時間をタッチする

- ［30秒］［20秒］［15秒］［10秒］［5秒］［オフ］（暗くしない）から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6　MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

以下の場合は、［エコモード］を設定していても、液晶モニターは暗くなりません。

- ACアダプター使用時
- 動画撮影中
- ボイスメモ録音中
- セルフタイマー動作中
- 音声／動画再生中
- スライドショウ中
- ビデオ出力中

時間が経つと電源をオフにする（オートパワーオフ）

一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れるように設定できます。

1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［その他］をタッチする

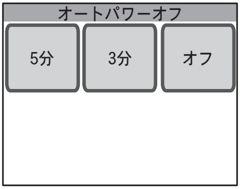
「その他」画面が表示されます。

3　⇨アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4　［オートパワーオフ］をタッチする

「オートパワーオフ」画面が表示されます。



5　電源が切れるまでの時間をタッチして選ぶ

- ［5分］［3分］［オフ］（電源を切らない）から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6　MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

パソコンやプリンターと接続中は、［オートパワーオフ］を［オフ］以外に設定していても、カメラの電源は切れません。

ガイド表示を設定する

［撮影モードパレット］や［再生モードパレット］でアイコンをタッチしたときに、ガイド画面（そのアイコンの機能の説明画面）を表示させるかどうかを設定します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

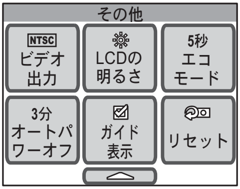
2 ［その他］をタッチする

「その他」画面が表示されます。

3 アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［ガイド表示］をタッチする



☑（オン）／□（オフ）が切り替わります。

☑：ガイド画面を表示させる

□：ガイド画面を表示させない

5 MENUボタンを2回押す

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

［ガイド表示］が「オン」に設定されている場合でも、使用する機能のアイコンをダブルタッチすると、ガイド画面の表示を省略できます。

変更した設定を初期状態に戻す（リセット）

カメラの設定内容を初期状態に戻します。
ただし、言語、日時、ワールドタイム、ビデオ出力の設定は、設定をリセットする前の状態のまま保存されます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

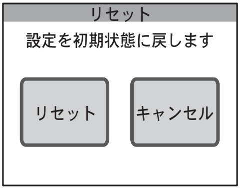
「その他」画面が表示されます。

3 アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［リセット］をタッチする

「リセット」画面が表示されます。



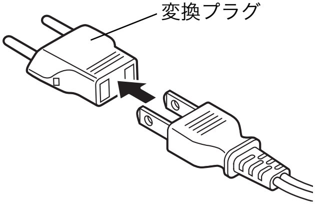
5 ［リセット］をタッチする

カメラの設定内容がリセットされ、撮影できる状態になります。

7 付録

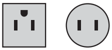
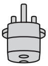
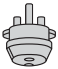
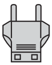
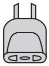
海外でバッテリーを充電する

同梱のバッテリー充電器は、自動で全世界の電源電圧（100-240V）、電源周波数（50Hz、60Hz）に切り換わるように設計されています。
ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、「主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ」を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合った変換プラグを準備してください。
充電の方法は、日本国内と同じです。



注意

- 市販の変圧器などを使用すると、故障する恐れがあります。
- ご使用にならないときは、変換プラグをコンセントから外してください。

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
プラグ変換	不要です				

メモ

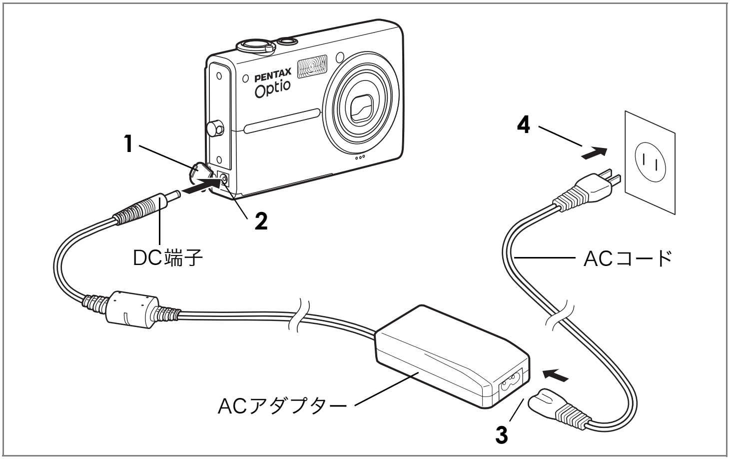
同梱のACコード D-CO2Jは、タイプAです。

主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

		A	B	BF	C	S
北米	アメリカ合衆国、カナダ	○				
ヨーロッパ、旧ソ連地域	アイスランド、アイルランド、イタリア、ウクライナ、オーストリア、オランダ、カザフスタン、ギリシャ、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベラルーシ、ベルギー、ルーマニア、ロシア				○	
	イギリス		○	○		
	スペイン	○			○	
	スイス、ポーランド、ポルトガル		○		○	
アジア	日本、台湾	○				
	スリランカ、モルジブ		○			
	ネパール、バングラデシュ、モンゴル				○	
	ベトナム	○			○	
	インド、インドネシア、パキスタン、マカオ特別区		○		○	
	タイ	○		○	○	
	大韓民国	○	○		○	
	フィリピン	○			○	○
	シンガポール、香港特別行政区		○	○		
	中華人民共和国	○	○	○	○	○
	マレーシア		○	○	○	
オセアニア	オーストラリア、トンガ、ニュージーランド、フィジー					○
	グァム島	○				
	タヒチ				○	
中南米	コロンビア、ジャマイカ、ハイチ、パナマ、バハマ、プエルトリコ、ベネズエラ、メキシコ	○				
	ブラジル、ペルー	○			○	
	チリ		○		○	
	アルゼンチン			○	○	○
中東	イスラエル、イラン				○	
	クウェート		○		○	
	ヨルダン		○	○		

		A	B	BF	C	S
アフリカ	カナリア諸島、ギニア、モザンビーク、モロッコ				○	
	ケニア、南アフリカ共和国		○		○	
	アルジェリア	○	○	○		
	エジプト		○	○	○	
	ザンビア、タンザニア		○	○		

ACアダプターを使用する



長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプターキット「K-AC7J」（別売）のご使用をおすすめします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、DC 入力端子のカバーを開ける

2 ACアダプターのDC端子をカメラのDC入力端子に接続する

3 ACコードをACアダプターに接続する

4 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- ACアダプターの接続や取り外しは、必ずカメラの電源が切れた状態で行ってください。
- 電源および接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。
- ご使用の前に、必ず「ご注意ください」（p.7）をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキット「K-AC7J」の使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプターを接続しても、カメラ内のバッテリーを充電することはできません。

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。

ACアダプターキット K-AC7J

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 8（※）

バッテリー充電器キット K-BC8J（※）
（バッテリー充電器 D-BC8、ACコード D-CO2Jのセット）

USBケーブル I-USB17（※）

AVケーブル I-AVC7（※）

ストラップ O-ST20（※）

ストラップ O-ST8

レザーストラップ O-ST24

スポーツストラップ O-ST30

カメラケース O-CC45

リモートコントロール E（ズーム対応品）

リモートコントロール F

（※）の製品は同梱品と同じものです。

メッセージ一覧

カメラを使用中に、液晶モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電器で充電してください（p.14）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像や音声が保存されていて、これ以上画像や音声を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像や音声を消去してください（p.17、p.88）。 写真の画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります（p.49、p.93）。
内蔵メモリーの空き容量がありません	内蔵メモリーに容量いっぱいの画像や音声が保存されていて、これ以上画像や音声を保存できません。SDメモリーカードを使用するか、不要な画像や音声を消去してください（p.17、p.88）。写真の画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります（p.49、p.93）。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影/再生共にできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.120）。
カードがロックされています	SDメモリーカードがライトプロテクトされています（p.19）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。写真の画質または記録サイズを変えると撮影できる可能性があります（p.49、p.93）。
画像/音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像や音声が保存されていません。
消去中です	画像や音声を消去中に表示されます。
この画像/音声を再生できません	このカメラでは再生できない画像や音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダが作成できません	最大のフォルダ番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像や音声を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください（p.17、p.120）。
画像/音声が作成できません	最大の数（5000）の画像や音声を記録したため、これ以上の撮影や録音ができません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください（p.17、p.120）。

プロテクトされています	プロテクトされた画像や音声を消去しようとした場合に表示されます。
記録中です	画像がまだ記録中なのに、再生モードに切り替えたとき、またはプロテクト、DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカードや内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます
この画像/音声をリサイズできません	リサイズできない画像や音声をリサイズ時に選択した場合に表示されます。
この画像/音声をトリミングできません	トリミングできない画像や音声をトリミング時に選択した場合に表示されます。

PictBridge機能を使用する場合に、液晶モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

用紙がありません	接続したプリンターの用紙がない場合に表示されます。
インクがありません	接続したプリンターのインクがない場合に表示されます。
プリンターエラーです	接続したプリンターからエラーメッセージが送られた場合に表示されます。
データエラーです	接続したプリンターからデータに関してのメッセージが送られた場合に表示されます。
用紙が詰まりました	接続したプリンターで紙詰まりが起こった場合に表示されます。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ、入れてください（p.15）。
	バッテリーの入れ方を間違えている	バッテリーの向きを確認し、入れ直してください（p.15）。
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください（p.14）。
	寒さでバッテリーの性能が一時的に低下した	バッテリーをポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。
液晶モニターに何も表示されない	カメラの電源がオフになっている	カメラの電源をオンにしてください（p.20）。
	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、液晶モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、液晶モニターは常にオフになります。
	表示モードが「オフ」になっている。	液晶モニターをタッチして、表示モードを切り替えてください（p.40）。
	[エコモード]が作動している	撮影時はシャッターボタン半押しで解除、再生時は液晶モニターをタッチすると解除されます。
	表示はされているが、確認しづらい	日中屋外の撮影では、液晶モニターが表示されていても、確認しづらいことがあります。液晶モニターを明るく設定してください（p.132）。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要なファイルを消去してください（p.17、p.88）。写真の記録サイズや画質を変えると撮影できる可能性があります（p.49、p.93）。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。あるいは、マニュアルフォーカスを使用してください（p.64）。
	AFエリア内に被写体が入っていない	AFエリア内にピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリア内にない場合は、撮りたいものをいったんAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	[フォーカスモード]を（マクロ）にセットしてください（p.63）。
	[フォーカスモード］が（マクロ）になっている	[フォーカスモード]が（マクロ）のときは、40cmより遠いものには、ピントが合いません（p.63）。
	暗いためピントが合いにくい	[AF補助光］を「オン」に設定してください（p.66）。
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が（発光禁止）になっている	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.56）。
	撮影モードが（動画）、[ドライブモード]が（連続撮影）、[フォーカスモード］が（無限遠）に設定されている	他のモードに切り替えてください。
写真がぶれている	撮影中にカメラが動いた	三脚やセルフタイマー、リモコンを使用してください（p.62）。
	撮影中に被写体が動いた	ストロボを使うか、感度を高くするとシャッタースピードが速くなり、ぶれにくくなります。（p.62）。
撮影した写真の色がおかしい	ホワイトバランスの自動調整がうまくいかなかったか、設定が間違っていた	ホワイトバランスの設定を確認してください（p.58）。

7 付録

現象	原因	対処方法
撮影した写真が暗すぎる	フラッシュが（発光禁止）になっていた	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.56）。
	被写体までの距離が遠く、ストロボの光が届かなかった	ストロボの光が届く範囲で撮影してください（p.56）。
	カメラの露出調整がうまくいかなかった	露出を＋側に補正してください（p.53）。
	被写体が逆光になっていた	スポット測光を利用すると、中央部の被写体を適切な明るさで撮影できます（p.55）。
撮影した写真が明るすぎる	ストロボが発光した	ストロボを発光させたくないときは、（発光禁止）に設定してください。また、（ソフト発光）に設定するとストロボの光を弱めることができます（p.56）。
	カメラの露出調整がうまくいかなかった	露出を－側に補正してください（p.53）。
画像や音声が消去できない	SDメモリーカードがライトプロテクトされている	SDメモリーカードのライトプロテクトを外してください（p.19）。
	画像や音声がプロテクトされている	画像や音声のプロテクトを解除してください（p.91）。
内蔵メモリー内の画像や音声が再生できない	SDメモリーカードが入っている	SDメモリーカードを取り出してください（p.18）。
設定した機能が電源をオフにすると元に戻ってしまう	[モードメモリ]が「オフ」になっている	機能によっては、[モードメモリ]を「オン」にすることで電源をオフにしても設定を記憶させておけるものがあります（p.38）。
画像や音声ファイルに表示される日付が正しくない	[日時] が設定されていない	[日時] を設定してください。ご購入時には日時の設定はされていません（p.21）。
	バッテリーの残量がないまま放置していた	バッテリーの残量がない状態で約1日放置すると日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください（p.121）。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	[USB接続]モードが（PictBridge）になっている	[USB接続]モードを（PC）に変更してください（p.130）。
プリンターとのUSB接続がうまくいかない	[USB接続]モードが（PC）になっている	[USB接続]モードを（PictBridge）に変更してください（p.130）。
テレビでカメラの画像が再生できない	カメラを接続した映像入力端子が選択されていない	カメラを接続した映像入力端子を選択してください（p.86）。

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	600万画素	
撮像素子	総画素数636万画素、 原色フィルター／インターライントランスファー 1/2.5型CCD	
記録画素数	写真	6M（2816×2112）、5M（2592×1944） 4M（2304×1728）、3M（2048×1536） 2M（1600×1200）、640（640×480）（ピクセル）
	動画	640（640×480）、320（320×240）（ピクセル）
感度	オート、マニュアル（80／160／320／400：標準出力感度）	
記録方式	写真	JPEG（Exif2.2）、DCF準拠、DPOF対応、 PictBridge対応、PRINT Image Matching III対応
	動画	AVI（Motion JPEG準拠）、ストリーミング記録、約30fps／約15fps（フレーム／秒）、PCM方式、モノラル音声付
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：WAVE（PCM）方式、モノラル
画質	写真	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
	動画	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
記録媒体	内蔵メモリー（約12MB）、SDメモリーカード	

撮影枚数と時間

写真

	★★★（S.ファイン）		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB
6M 2816×2112	約3枚	約35枚	約7枚	約73枚	約10枚	約103枚
5M 2592×1944	約4枚	約42枚	約8枚	約82枚	約12枚	約124枚
4M 2304×1728	約5枚	約53枚	約10枚	約103枚	約15枚	約155枚
3M 2048×1536	約6枚	約68枚	約12枚	約130枚	約18枚	約190枚
2M 1600×1200	約10枚	約103枚	約17枚	約177枚	約26枚	約275枚
640 640× 480	約39枚	約414枚	約66枚	約690枚	約92枚	約966枚

動画／音声

		30fps		15fps		音声	
		内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB	内蔵メモリー	128MB
640 640×480	★★★	約4秒	約48秒	約9秒	約1分36秒	約12分47秒	約2時間12分22秒
	★★	約6秒	約1分9秒	約13秒	約2分17秒		
	★	約10秒	約1分50秒	約21秒	約3分40秒		
320 320×240	★★★	約18秒	約3分12秒	約36秒	約6分24秒		
	★★	約26秒	約4分35秒	約52秒	約9分7秒		
	★	約42秒	約7分19秒	約1分23秒	約14分32秒		

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル	
レンズ	焦点距離	6.2mm～18.6mm（35mmフィルム換算：37.5mm～112.5mm相当）
	F値	F2.7～F5.2
	レンズ構成	5群6枚（非球面レンズ2枚使用）
	ズーム方式	電動式
	撮影範囲	約148mm×約111mmを画面いっぱいに撮影可能（マクロモード時）
デジタルズーム	撮影時	最大約4倍（光学3倍ズームと合わせ、最大約12倍ズーム相当のズーム倍率）
液晶モニター	タッチディスプレイ式3.0型TFTカラーLCD（バックライト付）、明るさ調整付、約23万画素	
再生機能	1コマ、インデックス（9画面）、拡大（最大12倍まで、スクロール可）、回転表示、音声再生、スライドショウ、動画再生・編集（静止画保存）、ヒストグラム表示、画像／音声コピー、デジタルフィルタ（ソフト、イラスト、スリム、特殊効果）、明るさフィルタ、カラーフィルタ（白黒、セピア、カラー8色、白黒+赤、白黒+青、白黒+緑）、トリミング、リサイズ、フレーム合成、赤目補正、お絵かきモード（線描画、スタンプ、画像切取、マイスタンプ、消しゴム）、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカス	

フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 5点AF（マルチ／スポット切替可）
	写真（レンズ前面から）	ノーマル：約0.4m〜∞（ズーム全域） マクロ　：約0.15m〜約0.5m（ワイド端） パンフォーカス： 約1.2m〜∞（ワイド端）、 約4.8m〜∞（テレ端） 遠景　　：∞（ズーム全域） マニュアルフォーカス： 約0.15m〜∞（ワイド端）、 約0.4m〜∞（ワイド端以外）
	動画（レンズ前面から）	ノーマル：約0.15m〜∞（ワイド端）、 約0.4m〜∞（ワイド端以外） マクロ　：約0.15m〜約0.5m（ワイド端） パンフォーカス： 約0.7m〜∞（ワイド端）、 約2.7m〜∞（テレ端） 遠景　　：∞（ズーム全域） マニュアルフォーカス： 約0.15m〜∞（ワイド端）、 約0.4m〜∞（ワイド端以外）
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出機構	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央部重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
撮影モード	プログラム、夜景、動画、ボイスレコーディング、風景、花、ポートレート、サーフ＆スノー、スポーツ、ペット、料理、フレーム合成	
動画	連続録画時間	約1秒〜内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱいまで
シャッター	型式	メカニカル併用電子シャッター
	速度	約1/2000秒〜約4秒
ストロボ	型式	赤目軽減機能付オートストロボ
	発光モード	オート（低照度時）、発光禁止、強制発光、オート+赤目軽減、強制発光+赤目軽減、ソフト発光（夜景モード時のみ低速シンクロ可能）
	撮影範囲	ワイド端　約0.15m〜約4.5m （標準出力感度オートの条件において） テレ端　約0.4m〜約2.5m （標準出力感度オートの条件において）
ドライブモード	1コマ撮影、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後）、連続撮影、リモコン（約3秒、即）	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
リモコン	ペンタックス リモートコントロールE、F（別売） リモートコントロールEでは、リモコンによるズーム操作可	

時計機能	ワールドタイム	世界71都市に対応（28タイムゾーン）
電源	専用リチウムイオンバッテリーD-LI 8、ACアダプターキット（別売）	
バッテリー寿命	撮影可能枚数 130枚	※ 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：液晶モニター ON、ストロボ使用率50%、23℃）
	再生時間 90分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
最大充電時間	約100分	
入出力ポート	PC（USB2.0：ハイスピード対応）／AV端子、DC入力端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
PictBridge	対応プリンター	PictBridge対応のプリンター
	印刷モード	1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
	用紙サイズ指定	カード、L、2L、ハガキ、100mm×150mm、4"×6"、8"×10"、レター、11"×17"、A4、A3、プリンター設定
	用紙タイプ指定	★★★、★★、★、プリンター設定
	印刷品質設定	★★★、★★、★、プリンター設定
	ふち指定	あり、なし、プリンター設定
大きさ	95（幅）× 58.5（高）× 19.5（厚）mm（操作部、突起部を除く）	
質量	135g（バッテリー、SDメモリーカード含まず）	
撮影時質量	155g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、スタイラスペン、使用説明書、保証書	

索引

7
付録

7

付録

アフターサービスについて

1　本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満 1 年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2　保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3　次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
- 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
- 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
- 火災・天災・地変等による故障。
- 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
- 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
- お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4　保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5　本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6　海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7　保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。

電話受付

0120-737-919（フリーダイヤル）
03-3975-4314（携帯・PHS用）
受付時間：　午前9:00～午後5:00
（土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く）

インターネット受付

URL：https://www.pentax.co.jp/japan/support/

FAX受付

FAX：03-3975-4318
インターネット受付のURLアドレスからFAX申込書をダウンロードしてお使いください。

[宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ]

ペンタックスサービス（株）東日本修理センター　03-3975-4341（代）
〒175-0082　東京都板橋区高島平6-6-2
ペンタックス（株）流通センター内
営業時間：　午前9:00～午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター　06-6271-7996（代）
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間：　午前9:00～午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

メモ

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.co.jp/**

弊社製品に関するお問い合わせ

お客様相談センター **ナビダイヤル 0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS の方は、右記の電話番号をご利用ください。 **☎03-3960-3200（代）**

〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間 ：午前 9:00 ～午後 6:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ショールーム・写真展・修理受付

ペンタックスフォーラム **☎03-3348-2941（代）**

〒 163-0401 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階（私書箱 240 号）
営業時間 ：午前 10:30 ～午後 6:30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

ペンタックスファミリーのご案内

「写真をもっと楽しむために…」

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の全国的な写真クラブです。会員の方には、年４回発行の機関誌「Pentax Family」や年１回発行の「ペンタックス写真年鑑」などの刊行物をお届けするほか、写真セミナーなどのイベントへの参加や修理料金の会員割引等の様々な特典をご用意しています。あなたも「ペンタックスファミリー」で素晴らしい写真の世界をお楽しみください。

ペンタックスファミリー事務局 **☎03-3960-5740（代）**
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間 ：午前 9:00 ～午後 5:30（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
ペンタックスファミリーホームページアドレス http://www.pentax.co.jp/family/

ユーザー登録のお願い
お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PC 接続ガイド」（表面右下）をご参照ください。

PENTAX
for your precious moments

ペンタックス株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57610 01-200602
Printed in China